

わいわい通信

子育て応援メッセージ



「子育て応援メッセージ集」刊行にあたって

市川三郷町子育て・子育て支援ネットワーク連絡会
会長 村松 てるみ

皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度「子育て・子育て支援ネットワーク連絡会」では子育て支援ボランティア「いちかわ親子わいわいネット」の協力を得て「子育て応援メッセージ集」を刊行する運びとなりました。長年にわたり、この冊子への投稿を寄せていただいた多くの皆様に御礼を申し上げます。

2005年（平成17年）10月1日、旧六郷町、旧三珠町、旧市川大門町の三町が合併し市川三郷町となりました。それと同時期にそれぞれの町で活動していた子育て支援ボランティア団体が一つになり「子育て・子育て支援ネットワーク連絡会」が発足しました。

この会は町の子育て支援係が事務局となり17の団体で構成されています。あれから17年が経ち一層地域の子育て支援活動が強化されました。

年に一度の子育て支援団体が集結して行われる「子育て支援フェスティバル」は、子育て中の親子と中学生ボランティアも含め200余名が集う大きな子育てのお祭りです。また隔月発行し回覧されている「わいわい通信」は子育て情報を地域に発信し子どもの健やかな成長を応援しています。この「わいわい通信」の中に子育ての経験や子育てへの想いを綴ったコーナーがあり、今までに寄せて頂いたものが88通にもなりました。

そこで「子育て・子育てネットワーク連絡会」では、毎年行われてきた「子育て支援フェスティバル」が長引くコロナ禍により行えない状況にあるため、このメッセージを冊子に綴る事と致しました。

子どもは社会の宝物です。近年、地域社会の繋がりが希薄化し子育て家族が孤立化してしまう状況があります。地域の皆で子育てに対する意識や姿勢を見つめ直し、全ての大人が次世代を担う子どもたちやその親・家族に寄り添い温かく子どもたちの育ちを応援して行けたら素晴らしい地域作りができるのではないかと考えます。

この冊子の中の様々な子育ての経験を参考にいただき、健やかに子どもたちが育つことを願い刊行の挨拶といたします。

目 次



あいさつ

<2005年>

海野美智子	10月号	1
中込まゆみ	12月号	1

<2006年>

一ノ瀬春美	2月号	2
土 橋 信	4月号	3
金澤みちる	6月号	4
青柳正彦	8月号	6
一瀬 琴美	10月号	7
青柳好美	12月号	8

<2007年>

山本キミエ	2月号	9
堀口和子	4月号	11
土橋道子	6月号	12
保坂衣子	8月号	13
堀口千恵美	10月号	14
回木美紀	12月号	15

<2008年>

八代智代	2月号	16
大原小百合	4月号	17
新井啓子	6月号	18
丹沢直美	8月号	19
北川久美子	10月号	20
飯島ころ	12月号	21

<2009年>

袴田直子	2月号	22
矢崎美恵子	4月号	23
岩崎洋美	6月号	24
荒木美津子	8月号	25
村松生子	10月号	26
雨宮ちよ子	12月号	27

<2010年>

有泉妙子	2月号	28
佐藤紀子	4月号	29
一瀬牧子	6月号	30
新津朱美	8月号	31
渡邊和美	12月号	32

<2011年>

加賀美文子	2月号	33
遠藤京子	11月号	34

<2012年>

斉藤美佐	1月号	35
村松美名子	3月号	36
望月茂子	5月号	37
青柳みゆき	7月号	38
一ノ瀬節子	9月号	39
三谷敏子	11月号	40

<2013年>

赤池初子	1月号	41
保坂香	3月号	42
田中さとみ	5月号	43
村松優子	7月号	44
芦沢祐子	9月号	45
一瀬富枝	11月号	46

<2014年>

八木玲子	1月号	47
佐野陽子	3月号	48
村松文江	5月号	49
丹沢静江	7月号	50
砂田雅子	9月号	51
大野美智子	11月号	52

<2015年>

武藤紀子	1月号	・・・	53
古屋詔子	3月号	・・・	54
薬袋洋子	5月号	・・・	55
望月洋子	7月号	・・・	56
佐野ともみ	9月号	・・・	57

<2016年>

加藤満美子	1月号	・・・	58
村松てるみ	3月号	・・・	59
村松智子	5月号	・・・	60
佐野康子	7月号	・・・	61
内藤由美	9月号	・・・	62
土橋梨律子	11月号	・・・	63

<2017年>

今村有希	1月号	・・・	64
立川良子	5月号	・・・	65
青沼親子	7月号	・・・	66
畑川茂	9月号	・・・	67
依田昌子	11月号	・・・	68

<2018年>

高木夏奈	1月号	・・・	69
仲亀蘭	3月号	・・・	70
丹沢かず美	5月号	・・・	71
齊木祐子	7月号	・・・	72
望月里奈	9月号	・・・	73
小林郁	11月号	・・・	74

<2019年>

木谷綾香	1月号	・・・	75
一ノ瀬和則	3月号	・・・	76
一瀬杏菜	5月号	・・・	77
内山裕之	7月号	・・・	78
内山裕之	9月号	・・・	79

<2020年>

西野明日香	1月号	・・・	80
内藤英理子	3月号	・・・	81
遠藤絵里	10月号	・・・	82
一瀬瑞枝	12月号	・・・	83

<2021年>

一瀬広朗	2月号	・・・	84
一瀬澄子	4月号	・・・	86
高室伸代	6月号	・・・	88
村松てるみ	8月号	・・・	89
神長美幸	12月号	・・・	90

<2022年>

小田涼子	2月号	・・・	91
------	-----	-----	----

●お名前・紹介文およびメッセージの内容は、通信掲載当時のままになっています。



～海野美智子先生からのメッセージ～

子どもと一緒に散歩を楽しもう！

子どもの目線は地上何cm？低い目線にするといつも気づかないものが見えてくるよ。

目も心も子どもと同じにして楽しいこといっぱい見つけよう。

安全はお母さんがつくるもの。子どもから目を離さず、危険を予測して行動しましょう。

「わいわい探険隊」(10・26 実施)より



～子育て応援メッセージ～

(わいわい親子リフレッシュ 12・2 実施より)

真っ赤なもみじ、どんぐりなど美しい季節ですね。昼間の暖かな日差しのなかで、こどもたちはのびのびと良い季節を満喫していることでしょう。

外出先や家の中でこどもたちがママの思うように行動してくれない！なんて悩んでいませんか？「親の言う通りにはこどもは育たないが、親のしている通りにこどもは育つ」という言葉があります。「あいさつは？」とこどもの顔を見つめるママをよく見かけますが、ママが「こんにちは」と言ってみては如何でしょうか？きっと、素晴らしい自然なあいさつができるようになると思いますよ。子供と一緒に育ちましょう。

こどもそだち研究所

中込 まゆみ

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一ノ瀬春美さん

絵本ってすごい！！

冬の日差しの中で、すやすや眠っている赤ちゃん。すぐそこにきている春が今か今かと待ち遠しい季節になりましたね。その眠っているお子さんの寝顔をみると、健康で、すこやかに、心豊かに成長してほしいと願わない親はいないはずです。私たちは常日頃、「子どもさんには是非絵本を読んであげてください。そして一緒に絵本の楽しさを味わってください。」とお伝えしています。子どもが成長していく過程で、とても大切な役割を絵本が果たしてくれるからです。絵本はこころの栄養です。読み聞かせは言葉の発達と心の成長を助け、親と子の大切な時間をつくってくれます。お子さんをひざに乗せて、あるいは寝る前のひとときに絵本を楽しんでください。

絵本の主人公とともにドキドキしたり、ワクワクしたりすることは、不安と期待の中で自立の目をはぐくんでいきます。そしてなんでも知りたがり、やりたがる子どもたちは、その好奇心を絵本の中で満たします。動物や小さいものとの交流から思いやりとやさしさが育まれます。もちろん悲しみや困難も味わい、主人公とともに乗り越えていきます。絵本には、子どもたちの心を夢中にさせるものがいっぱい詰まっています。

それと同時に絵本は大人にとっても、感動的で学ぶことが多いものです。昨年出版された『砂漠で見つけた一冊の絵本』で著者の柳田邦男氏は「絵本は大人にとっても明日を生きる力となり、人生を支える力となる」といっています。まずはお母さん自身が絵本の楽しさ、すばらしさを実感してください。そしてお子さんに絵本を出会わせてあげるのは、大人の役目だということ。そしてお子さんと一緒に絵本の世界を楽しみながら絵本のページをひらいてみてください。「絵本ってすごい！！」ってつい言ってしまうですよ。

年齢にあった絵本が選べます。

『ことばの種まき』（1～6）（山崎慶子・フェリシモ出版）

ことばは大切なコミュニケーションの一つ、大人がその土台をつくってあげましょう。

『橋をかける～子供時代の読書の思い出』（美智子・すえもりブックス）

美智子様が子どもの頃の絵本体験、感動のスピーチ。

『テレビに子育てをまかせていませんか？』（コモ編集部・主婦の友社）

ちょっと考えてみましょう、子どもとテレビ関係



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

土橋 信さん

わいわいネットでは、毎回地域のかたから『子育て応援メッセージ』をいただいております。わいわい通信5号からは、メッセージをいただいた方から、次にメッセージをいただく方を紹介していただくという、「友だちの友だちは皆友だちだ！みんなで広げよう子育ての輪！！」と、どこかのテレビ番組の？？？のような企画をしてみました。そのうちに思いがけないような人からメッセージが届いたりして・・・とわくわくしています。

今回は、前回メッセージをいただいた 一ノ瀬春美さんの紹介です。初めてのお父さんからのメッセージです。

とってもいいね。『わいわい通信』初めて拝見！年配の私たち夫婦には昔懐かしい子育て、もうすぐ孫ができるかも？身近で役立つ内容なので嫁と孫のために綴っておこう。

商売柄（専門分野）本屋とパソコン教室からサポートメッセージ。昔売れた有名な『スポック博士の育児書』など育児関係の本はいっぱい、選ぶのに迷いそうです。私の尊敬する先生が注文した教育書『いい子の育てはいけない』この本は子どもの心や気持ちも理解してあげることが大切。また今は情報化時代、インターネットにもあふれんばかりの子育て情報、うまく使うと便利ですね。『子どもの救急』『k o d o m o ・ q q』と検索で入力。

でも本もインターネットも基は人と人のつながり（ネット）、みなさんの身近な『いちかわ親子わいわいネット』は子育てママには一番だとおもいます。

手づくり用紙の中に心がこもった情報、この1枚々々の積み重ねがとても有効なアイテムになるのでは・・・『わいわい通信』おいに活用しましょう。



《子育て応援メッセージ》みんなが応援！子育ての輪



金澤みちるさん

わいわい通信では、毎回いろいろな方から『子育て応援メッセージ』をいただいております。

金澤さんは、前回メッセージをいただいた土橋 信さんの紹介です。ご主人の営む空手道場とご商売をお手伝いなさる傍ら、4人のお子さんのおかあさんとして、毎日お忙しい日々を過ごしていらっしゃいます。24歳のお子さんがいらっしゃるとは思えないほど、若々しく素敵なおかあさんです。

子どもは「人生の指針」です

24歳の長女を筆頭に二男二女の4人の子どもを育てながらも、未だに未熟な母親ですが、自らの体験を少しだけ述べさせていただきます。

私は、今日まで4人の子どもたちのお陰で、常に日常生活の中で警告を受け反省させられています。子どもたちに起こる病気、けが、その他さまざまな現象は、母親への命がけのメッセージだと思うのです。

第1子の長女は、私が無知なためにとってもかわいそうな思いをさせてしまいました。3歳になった頃、突然体中に原因不明のじんま疹が出たのです。そのため小学生になってもスカートがはけませんでした。初めは、外的要因に責任を転嫁していたのですが、ある時私のお腹の中にいたときに食べた毒を、自らの体を犠牲にして吐き出していることに気づいたのです。その日から妊娠中を振り返り「お母さんがこんなことがあって苦しかったから毒を食べさせちゃったんだね。本当にごめんね。」と思い出せる限り一つ一つ、眠っている長女に手をついて毎晩あやまり続けました。どのくらい続けたのか忘れてしまいましたが、突然娘が「お母さんでなくなったよ。」という言葉聞いた時には、ようやく許してくれたんだと胸をなでおろしました。

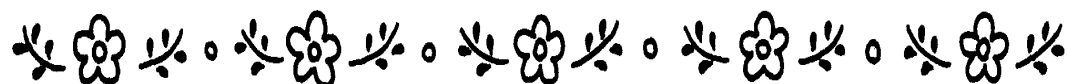
もちろん今でも子どもたちにいろいろな現象が起こりますが、その都度「お母さん、今の生活を反省してください。調和が足りませんよ。愛情が出し切れてないですよ。」というメッセージなんだと気付かされ、日々の生活を改めさせられています。私にとって4人の子どもたちは人生の指針です。とても助けられています。

ヤンキー先生でおなじみの義家弘介先生がある紙面で「夢とは、条件付きでかなったり壊れたりしてしまうほど、ちっぽけなものではないはずだ。夢とは『子ども達そのもの』を指す言葉。夢は『私たちそのもの』を指す言葉だ。夢をかなえるということは、夢そのものである自分自身の人生を最後まで全うすることだろう。」と述べておられます。このような夢を親子でかなえられるように毎日を努力して生きなければと思います。

それでは、おこがましくもありますが、これからママさんスタートという皆様にちょこっとアドバイスをさせていただきます。我が子への愛情表現として、母乳育児、布おむつ、手作り離乳食をぜひ頑張ってみてください。子どもからのメッセージに気づきやすくなります。

また、育児書もなかった時代のおばあちゃん方の子育ては驚くべきアイディアが盛りだくさんです。困って時には頼ってみてください。

最後に、現在も子育てに悪戦苦闘の毎日から学んだことは、「子どもという者は、親を裏切りながら成長してゆく生き者だ」ということです。



《子育て応援メッセージ》

みんなが応援！子育ての輪 ～ 青柳 正彦さん～

わいわい通信では、毎回いろいろな方から『子育て応援メッセージ』をいただいて、みなさんにお届けしています。

青柳さんは、前回メッセージをいただいた金澤みちるさんの紹介です。大学生・高校生・中学生のお父さん、そして子ども達を世話するお仕事をする傍ら、ビデオカメラマンとしても活躍なさっています。

子どもといっしょに・・・

私が小学生だった1960年代、テケテケサウンドのベンチャーズや、映画『エレキの若大将』の加山雄三が大人気でした。“エレキギターは不良のはじまり”と世間は非難し、反対する人もいましたが、我が家では「いい音楽だね。カッコいいね」と家族全員が大賛成。理解ある両親のおかげで、その頃からエレキギターやドラムに親しむことができたんです。今でも楽器はそばに置いてあり、子どもたちは、生まれたときから玩具がわりに触れていたんですよ。一度も「楽器を習いなさい」と強制した事はありませんが、いつの間にか私より上手になり驚いてしまいます。また私は映画も大好きでしたので、家や学校で嫌なことがあっても、音楽や映画が心の逃げ場所となり気持ちの切り替えに大いに役立ちました。

みなさんのなかにも「昔はピアノを習っていたけど・・・」とか「学生時代は少しは英語が話せたのに、今はもうみんな忘れちゃった。」とおっしゃる方も多いと思います。子どもに「〇〇〇しなさい。」といくら言ってもなかなか言う通りにはなりませんよね。まずは親が目標を持って、生き生きとチャレンジしている姿を見せれば「〇〇〇しなさい。」と言わなくても、子どものやる気や意欲が自然に湧いてくると思うんですよ。

どんな事でもいいです。家族でそれに触れ「あー良かったね。」「よし、明日からも頑張るぞ。」と素直な心を家族で共感することが大切かもしれませんね。子育て中のみなさん、その子の中にある豊かな発想や表現力の芽を育てるためにも、子どもといっしょに何かを始めてみましょう。

あなたの好きなことから・・・。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一瀬琴美さん

わいわいネットでは、毎回地域のかたから『子育て応援メッセージ』をいただいて、みなさんにお届けしています。

今回は、前回メッセージをいただいた 青柳正彦さんの紹介です。

現在、元気な4人の息子さん達の、元気なおかあさんとして子育てをエンジョイ中！養護学校の先生をなさっていたという経歴もお持ちです。

一緒に楽しんじゃおう！

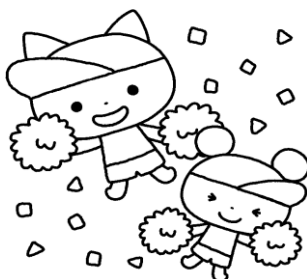
もう何年になる、10年？ 我が家のちびが赤ちゃん卒業して、私も一緒に卒業してから。

忘れてました。 あのふわふわ、もによもによの赤ちゃん。
トコトコ歩きの ちびっこ天使。 水たまりにとびこむ 泥んこガキンチョ。
子育て真っ只中は、おんぶに抱っこ、ベビーカー押して、4人連れて
シャカリキ母ちゃんしてました。「楽しかったな」って、今も楽しいけれど・・・。

今思うと一番私が楽しんでたな。
田んぼいっぱいレンゲのお花見。 踏み切りで電車にバイバイ。
『うんこバイバイ』って、トイレでうんちできたじゃん！
私の人生で二度目の幼児期を体験させてもらいました。

子育て、確かに大変だけど、体えらいけど、喜び・楽しみもいっぱい。
見方を変えてプラス思考で乗り切っちゃいましょう。母ちゃんが目の色変えて
楽しめば、ちびちゃん達もついて来る。大変だったら周りにHELPしてもらって。

うんと旦那さんと仲よくして、一緒に子育て楽しんで！！



今は自分育てを楽しんでる おばさんからの提案です。

Go for it ! (頑張れ!)

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

青 柳 好 美 さん

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいて、みなさんにお届けしています。

今回は、前回メッセンジャー 一瀬琴美さんよりの紹介です。養護学校の先生をなさっていた青柳さんは、『水口屋』の奥さん。市川マップの会でも活躍されています。また、絵画というすてきな趣味もお持ちです。みなさんもどこかで好美さんの描く絵をご覧になったことがあるでしょうか？



笑顔がいちばん

「子育て」ということばを懐かしく感じます。初めて親となったあの感動の日からもう21年経ってしまいました。赤い顔をして泣いている我が子を抱かせてもらい、ほっとして涙を流したことを思い出します。というのも産まれたはずなのに我が子の泣き声が聞こえずバタバタと走り回る看護婦さんの足音だけが聞こえている状況だったからです。3分間でしたが仮死状態だったのです。ただ祈るだけの3分間でした。泣き出す声が聞こえた時は本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。こんなスタートから、新米ママの子育ては始まりました。不安だらけの子育ては、周りの人に助けられ、時には子どもの笑顔に励まされ今日に至っております。とにかく親子で笑って、泣いて、怒って過ごした年月でした。子どもの寝顔を見ながらその日を反省することも度々。「今日は怒りすぎちゃったね。ごめんね。」と謝りながら疲れで眠る日々でした。明日は笑顔で過ごせるように祈りながら……。

少々頼りない親でも子どもは日一日と成長していくものなのです。きっと人間は生まれながらにして成長していく術を持っているのでしょう。親はそれを広い視野を持って見守るのが役目なのかなあとと思っています。子どもたちの瞳がキラキラと輝き、屈託のない笑顔のあふれる未来にしなければなりません。子どもたちの笑顔は みんなを幸せにしてくれます。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

山 本 キ ミ エ さ ん

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいております。今回は、前回メッセンジャー 青柳好美さんの紹介です。次頁に、山本さんから紹介いただいた詩を掲載しました。

みんな大事ないのち

初孫との最初の対面はガラス越しからでした。保育器の中には、今にも消えてしまうのではと思えるほど小さい命が弱く弱く息づいていました。抱くことも許されず、ただ祈るだけの日々。数日後にはダウン症の告知。息子からの知らせに受話器を持ったまま仕事先で止めどもなく流した涙は、乾く暇がないほどでした。神様はどうして息子達にこのような試練をあたえるのだろうかと思えた日々を送ったあの頃。でもこの小さい命、いとおしい命は神様から息子達へのプレゼント。息子達は神様に選ばれたのだという考えに至ってすでに5年が経ちます。あの消え入りそうだった命が入退院を繰り返しながらも逞しく育ち、今ではあまり風邪も引かなくなりました。その代わり一日中悪さばかりして、物を投げるのが得意？な彼は、受話器・ポット・花器・食器等々、犠牲になった物は数知れず。

“ダウン症の子はおとなしいはずではなかったの!!”と怒り狂う未熟な私がそこにいるのです。でも100万ドルの笑顔にあうと、もうバーバはメロメロ。まるできれいな心を映している様な純真無垢な天使の笑顔。この笑顔がいつまでも曇りませんように、ハンディをもった子達が目を輝かせて大きく羽ばたける世の中であってほしいと祈らずにはいられません。ハンディを持っていともいとおしい命に変わりはないはず。強い子も弱い子も、泣き虫さんも暴れん坊さんも、大事な大事な命。どうかお母さん方、自分の子はもちろん他の子も、弱い立場の子もみんなみんないとおしんでください。子ども達に寄り添ってあげてください。お母さん達ひとりひとりが手を取り合っていっしょに子育てをしていけば、きっと良い世の中になると思うのです。決して一人で子育てをしようと思わないでください。勇気を出して手を伸ばせば、必ず誰かがその手を強く握りしめてくれるはずです。

時々、ダウン症の孫に語りかけてあげるのです。「拓ちゃんはえらいね。神様が“おまえはダウン症で生まれるだろう。いろいろな悲しいことや辛いことがいっぱいあるだろう。それでもいいか？”と聞かれたとき、拓ちゃんは“ハイ”と答えて生まれてきてくれたんだもの。本当に偉いね。バーバの自慢の孫だよ。」

子どもはみんな、違うんだ

覚えておこう 子どもは、成長の設計図を持っている
子どもは、その速さで伸びる 子どもは、その時間で育つ
子どもは、その図案で実る 子どもは、その子の歩幅で学ぶ
子どもは、その子の資質で生きる 子どもは、その子の頭で考える
子どもは、その子自身の人生の約束を果たす
子どもは、みんな、違うんだ

子どもを励まそう

自分を大事にするように 人との違いを生かすように
全力でぶつかるように よい実を結ぶように
愛の心を感じるように この世の違いを認められるように
命を敬うように 確かな未来をつかむように

忘れないでほしい その子は、この世にたった一人しかいないのだ
子どもは違う 一人ひとり、みんな違う
そんな子どもがいるから この世にすばらしい 違いが生まれる

『子どもが育つ魔法の言葉 for the Heart』

ドロシー・ロー・ノルト著 (PHP 文庫)



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

堀 口 和 子さん （市川三郷町上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいております。今回は、前回メッセンジャー 山本キミエさんの紹介です。

本当に大事なものは何なのか、あらためて考える機会をいただきました。

子どもたちへのこしたいもの

私の子どもたちへ

笠木透 作詞・作曲

生きている鳥たちが生きて飛びまわる空を あなたに残しておいてやれるだろうか どうさんは
目を閉じてごらんない 山が見えるでしょう 近づいてごらんない こぶしの花があるでしょう

生きている魚たちが生きて泳ぎまわる川を あなたに残しておいてやれるだろうか どうさんは
目を閉じてごらんない 野原が見えるでしょう 近づいてごらんない りんどうの花があるでしょう

生きている君たちが生きて走りまわる土を あなたに残しておいてやれるだろうか どうさんは
目を閉じてごらんない 山が見えるでしょう 近づいてごらんない こぶしの花があるでしょう

私は20数年前に聞いたこの歌がずっと忘れられません。

太陽と水と空気、風と緑、そして土は私たち人間になくてはならない大切なものです。地球上の生命の営みに逆らうことは、人間の生命の危機にもつながります。我が家の庭の植物には、色んな虫がついてチョウや毛虫になります。花が咲き実がつくと鳥もやって来ます。孫が来ると石ころをとってはダンゴ虫を捜し、アリがいてその行列を追っています。見慣れない虫を見つけると昆虫の本で調べ教えてくれたり。私も「ダンゴ虫やミミズは良い土を作ってくれるんだよ。」と、孫たちと外で遊ぶのは楽しい・・・。

高価な物は望みません。子どもたち・孫たちに安心して遊べ、そして生きていける、豊かな自然あふれる地球を残したい。一人ではできないけれど、大人みんなで知恵を出し合って一歩ずつ進めていきたい。

（一人の ばあば の願いです）



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

土 橋 道 子さん （市川三郷町大塚在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回は、前回メッセージをいただいた 堀口和子さんのご紹介です。教育関係のお仕事もされた土橋さん。大きな課題を込めたメッセージをいただきました。

子育て真っ最中のお母さん達へ

抜けるような青空と新緑のみずみずしく輝く美しい5月の風景の中に立ち、あらためて地球の平和ということを考えています。

私は中国の北東部新京「現長春」に育ちました。日本が不幸な戦いに敗れた翌年、両親の古里甲府に引き揚げて参りました。ふるさとを持たぬ私でしたが、今は子ども、孫達にここ大塚にふるさとを持たせてあげたことに喜びを感じています。

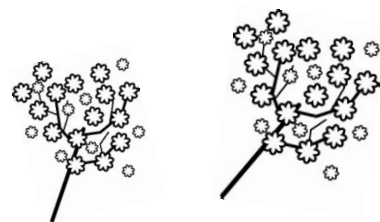
窓の外を一斉下校の児童達の賑やかで元気な声が聞こえます。間もなく保育園のバスも停まる時間です。核家族だった私たち夫婦はずっと共働きを続け、2人の子どもを育ててきました。先日、「おれ達ずっと放ったらかしで育てられた気がしたけど良く育ったよな。自分達が子どもを持ってみて子育ては大変だとつくづく思うよ。おふくろ、ありがとう。」なんて突然言われ、照れてしまいました。

子ども達が今まで道を踏み外さず健全な精神の大人に育ったのは、地域の方達が温かい目で見守ってくださったからだと思心から感謝しています。孫育ても今日までのお返しのつもりで、毎日忙しく楽しく生活しています。

子どもをいつも抱きしめてあげてください。子どもは社会のまた日本の未来を担う大切な宝物です。子どもは真白な心をもって生まれてきます。大人は子どもに愛を伝えなくてはならないと思っています。

人が人を傷つけ合い、愛する人達を戦場に送り国と国が犠牲を払い、大切な命が失われるようなことが許されていい筈はありません。美しい国日本に生き、愛する子ども達とともに平和を守っていくことが私たち大人の使命だと思っています。応援しています。ずっと……。

ふるさとを戦争により失ってしまった私の、今輝いている若いお母さん達への心からの幸せを願う愛のメッセージです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

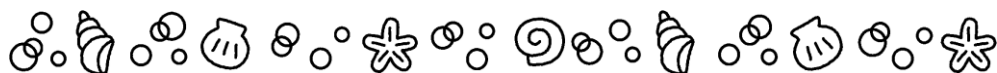
保 坂 衣 子 さん （市川三郷町大塚在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
保坂さんは、読書、映画鑑賞、社交ダンス、海外旅行などたくさんの趣味をお持ちです。
男女共同参画のリーダー等として活躍され、現在も市川三郷町のいくつかの施設の審議委員、みたまえがりての会のシナリオライターとして活動しておられます。

子育て 頑張れ！

はるか昔、私ごとながら 40年前、小学生と中学生の男児二人を抱えて母子家庭になりました。不幸にも病気や事故やその他多くの事情から片親で育てなければならなくなってしまうお父さん・お母さん、また親を失った子どもさん達に時代をふまえて自分の経験から何かアドバイスできたり、お手伝いできたらと日頃思っています。

子どもの食事から始まって、主婦としての家事一切をしながら職場の仕事を三十年間続けてきました。無論その時代は男優先の職場でしたから五感を働かせ書類の山に囲まれて必死で働くことが生活の原点でした。現代のようにコンビニエンスストアも冷凍食品もない時代、どこの母親と同様にありあわせの食材でお弁当を作ったり、家事以外、日曜日にはボーイスカウトの奉仕活動や、地域の行事なども子どもと一緒に楽しみましたが、自身、親になる勉強を子どもを通じて教えられたり、地域の子育て仲間から勇気を得た気がします。毎日が実に忙しい日々を送っていましたがある日、突然過労で倒れてしまいました。点滴と睡眠ですぐに元気を取り戻した私は早速、息子たちに食事の準備や料理を教え始めました。ボーイスカウトのキャンプなどで、経験のある長男は実に上手に野菜を刻み私は驚かされました。次男は不器用でしたが他の家事を担当して、しっかり兄弟関係が成り立っていました。多少残業で夕食が遅くなっても私には安心があり、母子家庭といえど楽しい暮らしがありました。独りで子育てをしなければならなくなった時、なるべくよい母親でありたいと、すべてのことに必死で完璧でと努力したものの、人間には限度があり、無理をすると必ず自分や子どもにふりかかることを思い知り、以後、生まれながらのケ・セラセラ、楽観主義に戻った次第。そのせいか、長男は底抜けに明るい性格で身内の集まりには欠かせない人になっているし、母子家庭の子は公務員にはなれないなどと世間の言葉の暴力もなんのその、次男は救急救命士となり頑張っています。世間というのは、実に無責任に傷つくようなことを言ったりします。でも、傷つきながらもその都度引きずっているわけにはいきません。「今日という日は今日だけ」と笑顔で過ごすことです。例え片親であっても決して卑屈にならないで、おおらかな心をもって、母親として、父親として堂々と子育てに頑張してほしいと思います。世界の宝となる子どもを育てているのですから……。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

堀口 千恵美 さん （市川三郷町大塚在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。堀口さんは、お二人の娘さんを共働き家族の中で育てていらっしゃいました。現在は、ケアマネージャーとしてご活躍されています。

子育て

娘2人が大学生になり、やっと子育てから解放され、私自身「第二の人生」を踏み始めました。振り返ればこの20年間、子育てという言葉をかみしめることなく無我夢中の毎日でした。共働きという環境で、年子の子どもの授乳・洗濯、入浴など育児ノイローゼになる余裕もなく時間が経過しました。「早く小学校へ」「早く中学、高校へ」頭の中はそればかりでした。子どもの成長を肌で感じることは思い返しても記憶が消し去られているようです。親として子どもと触れ合ったのは、ピアノ、習字とスキー・スイミングなど夫婦で役割を分担し、塾や教室の講師に頼らず、親がコーチ役となり週末の日課となり小学校時代の数年間続きました。二人とも「やってみたい」と興味を抱いたので、基本的なノウハウを伝えれば、のみ込みの早さには驚かされました。指の動きや、斜面での体重移動のテクニックなど、時として大声で怒鳴ったりもしました。思い返せば、この頃が親子の会話の溢れていた時期でもあり、娘たちの成長に目を細めていた頃でもありました。子どもとの素直な会話は、この時期に限定されているようです。以後、高校・大学の進路はすべて本人任せ（ほったらかし）の子育てでした。「親はなくとも子は育つ」と言われていますが、子どもの高校・大学受験に並行するように私も資格取得を目指していたので親子3人が受験生となり子どもの悩みを聞く余裕もありませんでした。失敗続きの子育てでしたが、今二人とも大学生活を十分すぎるほど楽しんでいるようで「結果よし」と思うほかありません。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



回 木 美 紀 さん （市川三郷町市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。回木さんは、栄養士として忙しくお仕事されている傍ら、トトロやわいわいネットなどのボランティア活動を通して子育てを支援してくださっています。今日は、思い出をこめた楽しいメッセージが届いています。

がーがーくん と バケバケちゃん

「がーがーのおはなし、して。」家族がまだ川の字で寝ていた頃、当時3歳くらいだった息子は部屋の明かりを消すと、いつもお話をねだったものでした。

「もうねえ、がーがーもねえ、夕ご飯を食べて、お風呂に入って、歯磨きしてね、今頃はがーがーのママと一緒にねんねするところなの。それで、お布団に入って、お話ししてもらってるよ。がーがーくんと歩夢くんとどっちが早くねんねするかしら？きっとがーがーくんですよって。」

その当時、息子が大好きだったショベルカーを、我が家ではがーがーと呼んで、外出中に大きなのを見つけると「あれは、がーがーのパパ」、小さいのを見つけると「がーがーの歩夢くん」。そんな風にしてお話をふくらませるのが習慣になっていました。

子どもを寝かしつければ、後は私の自由時間。本を読んだりビデオを見たり。その時間が待ち遠しくて、せっせと家事を済ませて9時には消灯！まんまるに輝いている子どもの目をとろーんとさせるためですが、たいていは芸がなく同じ話をしていました。10時ごろには必ず回ってくる火災予防広報車を利用させていただいたことも。「何て言ってるの？」という息子の質問に（アナウンス調の声で）「もう、バケバケの出る時間になりました。早く寝ないとバケバケに食べられてしまいます。良い子の皆さんは、早くねんねしましょう。」

早く寝てほしいと願うほど、子どもの目は輝くものです。たいていはこちらが根負けして次に目を覚ますのは夜中の2時頃。母の自由時間という野望は打ち砕かれるのでした。

最近息子から聞いた事ですが、少し大きくなるまで、火災予防広報車をバケバケ広報車だと信じていたそうです。私の演技力もなかなかのものでした。

冬になるといつも思い出す、楽しくて苦労した寝かしつけのお話です。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

八 代 智 代 さん （市川三郷町上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいて皆さんにお届けしています。前回登場の回木さんからの紹介です。

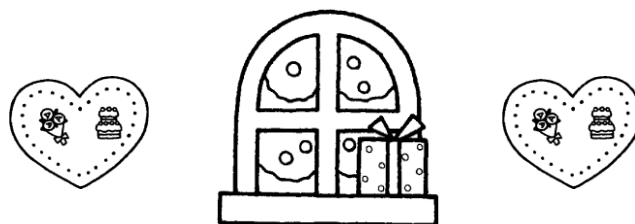
八代さんは、小学校5年・3年・1年生の3人の息子さんをお持ちです。歯科衛生士のお仕事のかたわら、わいわいネットなど子育て支援のサポートもしてくださっています。

我が家のだんご三兄弟、そして私

「だんご三兄弟」の母です。3人とも小学生になって少し手は離れましたが、にぎやかさには変わりなしです。誰か一人との時は、ほのぼのと過ごせるのに、2人・3人と揃うとたちまち……。 「三人三様」の団子たちはたくましくもあり、悩みのタネでもあります。まあ悩む原因は私にありなのですが……。

『ちょっとだけ』（福音館）という絵本をご存知ですか？初めて読んだとき涙が出ました。子ども達の育っていく心、自我や興味、それを受け止めるゆとりのない母だったと反省しました。高くて厚いと感じる育児の壁を、笑いと喜びに変えるのもまた子ども達の存在です。子ども達を通して見えた世界も、聞こえた音も、出会えた人々もかけがえのない私の宝。子ども達は本当に色々な「かすがい」と実感しています。子育ては大変！でもこの子達がいるから広がり続ける世界にワクワクしている今、やっとゆとりが持てたかな？

最近、私がしていることを子ども達が自然に始めることを育児の技にしています。本を読めば（マンガでも）隣で本を開き、何か書けば（パズルでも）同じ机で宿題を始め、音楽を流すと（クラシックでも）一緒に聞き会話もすすみます。ひっかかったな……と思うとホクホク。怒ってさせるより穏やかで楽しいです。そんな団子達もそれぞれに夢中になることをみつけ、背中に生えた小さな羽をよっこらよっこら動かしています。私も私のペースで親という羽を育てていこうと思います。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

大原 小百合 さん （市川三郷町上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいて皆さんにお届けしています。前回登場の八代さんからの紹介です。

大原さんは、三珠図書館ボランティア【耳をすませば】のメンバー、またアロマ環境協会 1 級アドバイザーとして活躍中。子どもや、地球環境の問題について関われることは何でもしてみたいとチャレンジ精神いっぱいの素敵なおかあさんです。

自 尊 心

自尊心と聞いてどう思いますか？ある勉強会で聞かれた時、私は「プライド？」、そんなふうに思いました。自尊心のかけらもなかったような・・・。

自尊心とは自分を大切にしようとする心。自分を好きになり、他人と同じように自分もすばらしい人生を創造するに値する人間だと信じる気持ちのこと。

自尊心のある人は常に自信に満ちあふれています。ですから失敗や間違いを犯してもそれを前向きにとらえて次のステップの土台にする心の余裕があります。自分を信頼するのは、まず自分。自尊心を持っている子どもは他人の自尊心をも大切にします。ですから人をいじめたり、自分もぐれたりしないはずです。いじめっ子は自尊心の不足を他人をいじめることで解消しようとするのですが、自分を含めてみんなを不幸にするだけです。大人の世界にもいじめがあり、他人と比較して勝手に落ち込んだり、したくないことを我慢してあとで人のせいにしたり・・・。

親（大人）が子どもに自尊心の大切さを教えることが大事なこと・・・だそうです。さて、私自身はどうでしょう？？まずは親の私が自尊心を高めてより明るく人生を創造できるようになっていこうと思います。

山日新聞に元ヴァンフォーレ甲府の選手が、小学校で夢先生を務め、挫折を経験しながらもプロサッカー選手の夢を叶えた道のりを話されたと載っていました。「夢をあきらめないで勇気を持って挑戦することが大切」と・・・。親の私が夢がないのに夢を持って挑戦しなさいなんて言ってもダメだなあと・・・。まずは小さくてもいいから夢を持ち、夢に向かっていきいきしていれば、大人っていいなあと思ってくれるかな？

子育てメッセージというより自分メッセージになってしまいました。長男は中3、双児の娘は小6と節目の年となりました。私も子どもたちと一緒に成長させていただいています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

新 井 啓 子 さん （市川三郷町上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 大原小百合さんのご紹介です。
新井さんは『耳をすませば』、『上野小学校図書館ボランティア』のメンバーとして
活動中。野外活動を通しての子どもたちの健全育成にも大きな関心をもたれています。

お空の上から

「ぼくね、神様にお願いしたの。ぼくはこのうちがいいです。このうちの
子どもになりたいです。ぼくをこのうちに生まれさせてくださいって。だ
からぼくはこのうちに生まれて来たんだよ。」

子どもは3，4才の頃、私にこう言いました。懸命に話すその表情を見て
いて私は本当にそうかも知れないと思いました。

今、その頃の面影はどこかなと探さなければならぬほどの変貌ぶり。気
がつくと理想と現実の間で親のエゴを子どもにおしつけようとしてはい
ないかと反省する自分がいます。

県外を故郷に持つ私たちは、長距離電話の料金よりも一冊の育児書を頼り
に3人の子どもを育ててきました。どこに子どもを預けるでもなく「出か
けるときは死ねばもろとも」と金魚のフンの様にいつも一緒でした。私の
亡くなった母や祖母たちの様には足元も及ばないけれど、子ども達や自身
の病氣ケガ入院などということも何度か経験しながら良くやって来たな
と若い母だった頃の自分を振り返ることができるようになってきた今日
です。

そして思うことは一子どもをここにつかわされた神様は今も微笑んでく
ださっているかしら、その幼子の笑顔は今も輝いているだろうかーという
ことです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

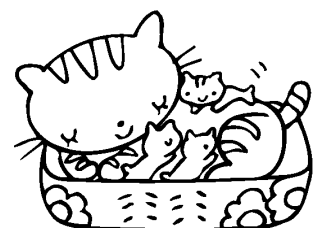
丹 沢 直 美 さん （市川三郷町上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 新井啓子さんのご紹介です。
丹沢さんは『耳をすませば』、『上野小学校図書館ボランティア』のメンバーとして、また町の子育てサポーターとして活躍中のすてきなお母さんです。

中学2年生と小学4年生の2人の息子の母です。
長男が中学生になる頃は、「なんて月日が経つのは早いのだろう」
と思ったものです。その頃一冊の本と出会いました。友人が勧めてくれた
「世界は1つの生命からはじまった」という絵本です。
一人一人がかけがえのない人。今、人間として生まれてきたこのすばらしい「生命」と「からだ」に感謝して生きましょう、というメッセージは私に感動と生きる力を与えてくれました。
1ページ、1ページ重みのある絵本だと思います。ぜひ、読んでみませんか。

子どもたちが成長していく地域や、成長を共にする友だちがいい子たちであってほしいという思いから読書ボランティアを始めました。
いろんな絵本とステキな仲間に出会い、視野が広がり楽しい日々を過ごしています。

親が心の栄養を豊かにすれば、子も豊かになっていくと信じて前向きに考えるようにしています。「子は授かりもので、預かりもの。そして世間におかえしするのです。」とある講演会で聞いたことがあります。その意味を深く受けとめて、子育てをがんばりましょう。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

北 川 久 美 子 さん （市川三郷町市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。北川さんは、この春8年のアメリカでの生活から日本へ帰国。帰国してすぐに学童保育やわいわいネットのお手伝いと引っぱりだこの北川さん。帰国したての今だからいただけたちょっと視点の違うメッセージです。



結婚して16年。8年ごとに2度主人の転勤を経験しました。もともと山梨も私どもの郷里ではないので、未知の土地に慣れてゆきながらの新婚生活・子育てはとても新鮮なものでした。幸いその頃、やる気に満ちた新米主婦の私にお料理や裁縫など丁寧に教えてくださるグループがあり、熱心に前向きに「良いお母さんになろう!」と張り切っていたことが思い出されます。でもそういう張り切りを継続するのは大変なことで、しょっちゅうくじけては、「私ってなんてダメなやつ!」と思ったものでした。その度に大いに落ち込んでいました。

初めての転勤はアメリカカリフォルニア州でした。上の子どもたち（双子）が小1、下の子が幼稚園の年少に入ったばかりの夏でした。アメリカでの生活は日本人にとってとても派手でダイナミックに感じられ学ぶべき点もたくさんありますが、3年・5年と経過するにつれ、私には日本人のすばらしさも感じられるようになりました。生活全体が繊細で、思いやりがあると思います。そして何よりたいていのお母さんたちは、毎日の食生活を大切にしていると思います。子どもが成長するにつれ子どもたちに関わる問題が複雑になり、「私ってダメなやつ」と頭をかかえて悩んでいる時に、ある先輩お母さんから、「おいしいご飯をいつも用意する、それだけで子どもは立派に育つものよ。」と言われ、そのことがどんなに大切なことなのか、今身をもって実感しています。日々の生活を切り盛りしていくのは当たり前で地味、そして評価してもらいにくいものだけれど、それが一番大切なこと。

アメリカでの8年の生活を終え、もっとも苦労しているのは我が家の子どもたちですが、彼らと囲む何でもない夕食の時間が至福のときです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

飯島 こころ さん (甲府市在住)

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 北川久美子さんのご紹介です。
飯島さんは2人のお子さんのお母さん。現在『甲府友の会』の会員として主婦業に磨きをかけていらっしゃいます。スタッフとして参加して下さった『わいわいごはん工房』では「こちらのほうが勉強になった」と感想をメッセージとして寄せてくださいました。

地域で子育て!! 受け継いでいきたい味

ー基本のきに参加してー

7年前に結婚で山梨に来て以来2人の子を出産し、その子ども達も3才と5才になりました。結婚当初は以前一人暮らしだったこともあり、特に家事に不自由も感じなかったのですが、子どもが生まれ、育児その他諸々のことに追われ気づけば一汁一菜どころか一菜の生活……。

さすがにこれではいけないと思っていた矢先に家事や家計を勉強する会と出会い、その先輩方に刺激を受け家事の奥深さに興味を持ったと同時に、「私には〈きほんのき〉がわかっていないなあ」と実感するようになっていました。そんなある日、「けんちん汁をダシのとり方からする講座をするから手伝ってね。」と声をかけられたのでした。面白そう!!と思う気持ちと、子どもを預けたことがないので大丈夫かな?という不安入り混じっての参加でしたが、ボランティアの方々のあたたかい笑顔にシャイな息子もうちとけてほっとしました。

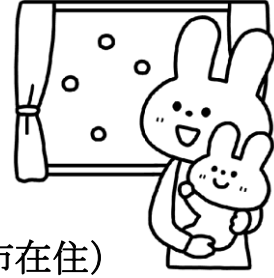
そして実習のほうも、お母さん方の手際のよさに救われ、だし本来の美味しさに忘れていた懐かしさを感じ感動するやら、感激するやら。

私は甲府に住んでいるのですがこれまであまり児童館に行ったことがありませんでした。市川大門児童館のイベントは活気があり、地域のお母さん方のパワーを感じます。魅力的なイベント情報を眺めては、一母親としてあれもこれも参加してみたいという気持ちでいっぱいです。

家で早速だしをとるのに挑戦!いつもは汁物は苦手で食の細い長男が一気に飲み干した時の嬉しそうな顔に、心でガッツポーズ!! 我が家の味として受け継いでいくことを固く心に決めたのでした。ありがとうございました。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



袴田 直子 さん （甲府市在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 飯島こころさんのご紹介です。
袴田さんは3人のお嬢さんのお母さん。現在『甲府友の会』の会員として、助産師
のお仕事をされながら、主婦業にも磨きをかけていらっしゃいます。

学んで楽しい「きほんの“き”」

元来、食いしん坊の私。

子どもの頃は、祖母がつくった美味しい新潟米と、母が作る野菜たっぷりのお惣菜をモリモリ食べて育ちました。まだ独身の頃、主人とのデートはもっぱら「食べ歩き」だったような気がします。

ただ、食べることは大好きでも作ることは大の苦手。結婚して人に作ってあげる立場になってから、食事作りに悪戦苦闘してきた事は、言うまでもありません。それは時を経て、三児の母になった今も変わりなく、「得意料理は何？」と尋ねられても、言葉に詰まる情けなさ、です。

おととしの春、縁あって山梨に来て、甲府友の会の仲間に入れてもらいました。衣・食・住について学べる機会に恵まれたこの1年半は、「目からウロコ」の知恵をたくさん教えてもらえた1年半でした。「ていねいに暮らす」この気持ち良さを今、少しずつ実感しているところです。

解かっているようで解かっていたいなかった事が、「解かるようになること」は、単純に、とてもうれしいです。「面倒くさい」とか「大変そう??」と思っていたことが、「なるほど!!」や、「意外とおもしろい!」に変わって来たりします。主婦になって初めて、いや、主婦になったからこそ改めて、きほんの“き”を学びたい!!と思うようになりました。

一緒に会話を楽しめる家族がいて、そこにあたたかいご飯があったなら、それは何よりのごちそうなのではないでしょうか？更にそこに、きちんとだしをとった味噌汁と、少しの漬物があったなら、これ以上の幸せはないのかもしれませんが。

私と同じ主婦のみなさん!! 一緒にきほんの“き”を学んで家族との「おいしい、楽しい時間」をすごしましょう。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

矢 崎 美 恵 子 さん （東京都在住）

わいわいネットスタッフ研修の講師をつとめてくださった、矢崎美恵子さんからのメッセージです。

矢崎さんは東京都の幼稚園に在職中から、ルドルフ・シュタイナーの教育を学び、現在に至っています。東京や山梨でパステル画の教室を開催し、パステル画の素晴らしさを伝えながらの、子育てや生き方のヒントになるお話も好評です。

「子育て」は「自分育て」

50代に入って、私はやっとこの頃、子育てが楽しくて面白くなってきましたが、以前は子どもを前にして右往左往の毎日でした。

今、私の子どもたちは成人して、それぞれの人生を歩みだしましたが、私としては、子どもを育てたというより、子どもたちに育ててもらったなという思いが強くなります。

私の子どもたちは世間で言う「いい子」でもなく、学校の成績は中の下で、いつも私に難題を持って来ては私を悩ませてくれました。

「なぜ、勉強するの？」

「なぜ、学校に行かなければならないの？」

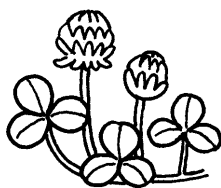
「なぜ、生きるの？」

それは私が向き合わなければならない問題でした。子どもたちにきちんと答えられない未熟な私の支えになってくれたのがルドルフ・シュタイナーの哲学でした。シュタイナーはドイツの哲学者で、日本では子安美知子さんの著書『ミュンヘンの小学生』で紹介されたシュタイナー教育で有名です。

シュタイナーによると、誰でも何らかの課題を持ってこの世に生まれてきたこと、その課題を学ぶために自分にやってきた壁（問題）を乗り越えること、乗り越えるためには常に自分の魂が生き生きと美しく輝いていること。「魂が生き生きと輝いている母親」になりたい。私は27年の子育ての中で常にそれを模索していました。まだまだ未熟ですが、同じ思いの友人とたくさん出会い、学生時代の友人とは深く学びあい、やっと「人を育てること」は「自分を育てること」と発見し、人生の面白さの入り口に立つことができました。

それは、私も私の子どもたちも決して「できのいい人間」ではなかったからこそ学び得たことだったのです。





《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

岩崎 洋美 さん （市川三郷町在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回、メッセージをくださったのは、わいわいネットのメンバーであり、児童館でもおなじみの岩崎洋美さんです。この季節、真白なバラ満開のお庭の主である岩崎さんは町内のみならず増穂町のぽぽんたクラブでも子育て支援活動をなさっています。



子どもからの贈り物

真っ白に洗いあがったシーツを干しながら、空を見上げた日、やっとあこがれの専業主婦になれたと思ったものでした。5年間の共働きから解放され、私は思い描いていた生活をスタートさせました。

エプロンの似合う人になりたい、手作りのおやつを食べさせたい。ディズニーランドで買ったミッキーとプーさんのトレイに食事やおやつを並べ、季節のテーブルを彩り、ほとんど舞い上がっていました。

ところが、完璧主義が災いして独身の頃からの持病が頻繁に起き、年に何回となく病院のお世話になるようになりました。

決定的だったのは長男が小学生、長女が幼稚園の時でした。手遅れになり、とうとう生死の境をさまようことに・・・

病院を訪ねてきた子ども達の顔からは笑顔が消えていました。幸い、事なきを得た私は、無理は禁物と、この日を境に「がんばりすぎない生き方」をしようと思いました。体力勝負の子育て、少しの汚れも手抜きものんびり構えることにしたのです。

それでも子育てに行き詰まり、自分の生き方に自信がなくなったとき1冊の絵本が私を支えてくれました。

シェル・シルヴァスタイン作『おおきな木』は、1本のりんごの木がひとりの男の子のために自分の身を削って、与え続け、最後は切り株になってしまっても与えることに喜びを感じるという内容です。

子育て中の自分とりんごの木が重なり、

「きはそれでうれしかった…」

その言葉をかみしめながら、りんごの木のように与えて報いを求めない心を持てたらと思ったものです

親は子どもに与えながら、子どもから多くの幸せを与えてもらっている、すでに成人した子ども達からの贈り物を大切にしたいと思うこの頃です。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

荒木 美津子 さん (中央市在住)

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回、メッセージをくださったのは、わいわいネットのメンバー・荒木美津子さんです。
わいわいのイベントでは外国暮らしの経験を活かし、ちょっとめずらしいおやつを提案してくれる荒木さん。天然っぽいあたたかさに癒されたりするのですが・・・実は、高校で教鞭をとってらっしゃるバリバリの教育者であったりします。

✿*。✿*。✿*。✿*。✿*。

先日、息子の通う学校から「麻疹実態調査」が来ました。予防接種or罹患状況についてでしたが、それぞれの質問項目ごとに「母子手帳で確認しましたか？(はい・いいえ)」の確認事項がついていたのです。やれやれ(ぐうたらな親である私は、その時こんな気分)、手帳を出さなくちゃ・・・う～んどっちがこの子(私には2人の子どもがいます)の手帳？あっ、これだ……。Open!・・・ペンの音・・・
「9年？平成だね。1997年ってことね」などとつぶやきつつ・・・終了。
パラパラ・・・パラパラと中身を見ました。すると、



生後 25日 ガラガラをにぎる。目が合う。

12ヶ月 エヘヘへと一人で笑い続けている。いないいないばあは、顔をかくすかわりに手を耳の横。

18ヶ月 お菓子は小片より大きいものをせがむ。気に入らないとバタバタする。家族にパシッとパンチをして「ごめんなさい」と笑いながら頭を下げ、目がニヤッと笑って、またパンチする。

24ヶ月 ねこをだっこ。カエルをにぎる。

30ヶ月 「〇〇行った」記憶を表現した。

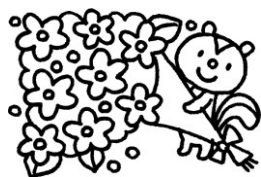
42ヶ月 セロテープをTV一面に貼り付けた。テレビぴかぴか

私とは別人のわが子が、おもしろくて、手元にあった手帳に書き込んでいたのです。

さて現実には、2人の子どもは自分の足で世界を拓けていっています。ただ、まだ中1と高3なので(経済力がないため)家にはきちんと帰ってきます。(帰ると「腹へった～。めしは？」とのたまわくんです。)どうなることやら・・・まあ、私は、子どもを信じています。真に自立する日が楽しみです。

P・S もしも逆の母子手帳があったら・・・子どもに何かかきこまれているのかな？何書かれるのかな？ 体重は着々と増加・・・？ 歯は何本？

✿*。✿*。✿*。✿*。✿*。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村 松 生 子 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回メッセージをくださったのは、わいわいネットのメンバー・村松生子さんです。
わいわいイベントの楽しみの1つといえば、なんといっても児童館で食べているとは思えないあのスイーツ。「わいわいのパティシエ」とよばれている生子さんはファミサポの心強いサポーターとしても町の子育て支援に協力くださっています。



先日、アニマル浜口さんの講演会に行く機会がありました。
娘の京子さんを体あたりでオリンピックの銅メダリストに育て上げた経験と家族の絆をエネルギーに語っていただきました。

熱い熱いご両親の期待に応え、血を吐くような特訓を重ねる素直な健気な京子さんはアニマルさんから見ても尊敬に値する選手でもあり娘でもあったそうです。

でも勝負の世界、勝つ時も負ける時もあります。ギクシャクした家の中での潤滑油は京子さんのお兄様。浜口家の影の立役者は彼だったとアニマルさんはおっしゃっていました。今もそのお兄様のところのお孫さんの顔を見るのが一番のエネルギーになるとか・・・。

どこの家庭にも役割分担がいつの間にかできているそうです。

そう言われてみれば、我が家6人家族にも客観的にみると役割があります。家族をなごませる人、お小言を言う人（もちろん私）、お小言を言わせる人（もちろん娘）、笑わせる人や空気をシラケさせる人（パパ）etc,etc うまく出来ているモンだなあと感心してしまいました。一歩引いて家族を客観的に見て人間ウォッチングしてみるのも楽しいですよ。

アニマルさんの「気合の10本締め」で終わった講演会は期待に反して、ホッとした気分になりました。たまにはいいものですね。講演会。

ファミリーサポート市川三郷にお子さんを預けて、たまには講演会等にお出かけもいいですよ。帰りに美味しいケーキでも食べて、リフレッシュ！リフレッシュ！！
ママの笑顔は家族の太陽ですよ。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

雨宮 ちよ子 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回メッセージをくださったのは、前回メッセージャー村松生子さんの紹介です。
市川三郷町愛育連合会長としてご活躍の雨宮さん。ご主人さまとともに長年、町の子どもたちを見守ってくださっています。



「むかあし、むかあし、あるところに・・・」と子どもを寝かしつけながら、昔話の絵本を読んでやりました。娘と息子は話の続きを知っているのに、目を輝かせながら聞き入っています。・・・私のほうが先に眠ってしまうことも多々ありました。

あれから30年が経ち「バーバ、本読んで」、今は孫を膝の上にのせ絵本を読んでいます。とても暖かい楽しい時間です。

私は、23歳の時に他県から嫁いでまいりました。知らない町での慣れない生活、淋しくて不安な毎日でした。頼りになるのは♡やさしい主人？♡と家族。でも私の【なんとかなるさ】のあっけらかんとした性格で少しずつ町にも馴染み、近所の人たちの優しさに励まされながらの日々でした。娘と息子の2人の子どもに恵まれました。自営（理容業）ですので、一日中働きづめの毎日。そんな中、わたしの一番大切な母としての時間は子どもに母乳を飲ませる時でした。子どもの顔を見ながら話しかけ、子どもも私の顔を見つめ嬉しそうな笑顔。親子の大切なひと時でした。

ある日、娘が突然「日曜日はつまんない」と泣き出し、訳を聞いたら「友達は家族で出かけ遊ぶ人がいない」と言います。「ごめんね、お客さん商売だから日曜日も休めないの。でもお客さんが来てくれるからご飯が食べられるし、服や玩具が買えるんだよ。」と話しました。子どもたちには淋しい思いをさせましたが、少しでも親の働く姿を見てほしいとの願いもありました。

「ただいまー」近所の子どもたちが学校の帰りに寄ってくれます。「このアメはまずい」、「今度麦茶を用意しといて」「トイレかして」といろいろな声がしてとても賑やかです。学校のこと、友達の事、家の事、たくさんの話をしてくれ聞いている私たちも楽しくなります。

そんな子ども達に一言。

「【キモイおじさん】と【口うるさいおばさん】が、今日みんなの帰りを楽しみに待っています。」



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

有泉 妙子 さん (市川大門在住)

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 雨宮ちよ子さんのご紹介です。
男女参画の町のリーダーとして、県内はもちろん、日本中・海外でも活動されている有泉さん。町の子ども達のためにファミサポのサポーターとして忙しい合間の時間を使ってくださっています。



子どもたちからのプレゼント



「ねえ、おかあさん！みてみて！ 水玉もようだよ。空の神様が道にお絵かきしているんだね。」弾けるような満面の笑みで私を呼びにきた娘。

「あのね。〇〇ちゃんのおかあさんがね。急にね・・・」とお友だちの深い悲しみをどう伝えたものかともどかしげに、大きな瞳から大粒の涙を零（こぼ）しながら私に知らせた息子。

二十年以上たった今でも、あの時の感動が、震えが、包まれていた空気の匂いとともによみがえってきます。

現在の日本社会は子供を産み、育てるには難しい環境かもしれません。働く女性が仕事を手放さずに育児をするにはかなりの努力が必要でしょう。父親が育児に係わりたいと思っても、その時間を作ることはとても難しい現状です。

それでも私は、子育てはすばらしいと叫びたいと思います。「子どもの親育て」という言葉がありますが、子どもが生まれてきてお父さん、お母さんと初めて対面する時、親としての子育てが始まるのと同時に、子どもから親へのプレゼントが始まる時なのです。見つめているだけで幸せにしてくれる笑顔や、成長の喜び、ともに体験して得られる達成感や充実感。時には悩みや苦しみ、悲しみもあるかもしれませんが、全部ひっくるめてそれらが親としての育ちや、人間としての成長を与えてくれ、生きる支えや癒しになってくれると思うのです。

今子育て中のお母さんやお父さんには、是非、子育てを楽しんでもらいたいと思います。そして子どもと過ごす時間をたくさん積み重ねて欲しいと願っています。私がそうであるように、きっといつか思い浮かべるだけでもふんわりとした幸福感を味わうことの出来る日がやってきます。

私はサポーターとして皆さんの応援をしていこうと思っています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



佐藤 紀子 さん (市川大門在住)

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 有泉妙子さんのご紹介です。
我が家の子ども達の『ちゅりっぷのせんせい』の佐藤先生。久しぶりに保育参観をみて
いるような…ほのほのあったかいメッセージをいただきました。

ぼくの宝物はすももの木

『そらいろのたね』(中川李枝子作・大村百合子絵)という絵本があります。ゆうじが宝物の模型飛行機を飛ばしていると、森のきつねが自分の宝物のそらいろのたねと交換してほしい。というので交換しました。種を植えると小さなそらいろの家が出てきてどんどん大きくなり、たくさんのお友達や、森の動物たちが集まってきました。それを見たきつねが「その家はぼくのものだから返して」と、みんなを追い出してしまいました。きつねだけになった家はだんだん大きくなり、太陽にぶつかって壊れてしまい、きつねはびっくりして目を回してしまいました。

もう 30 歳を過ぎた息子の小学校の授業参観でこの絵本が取り上げられ、教師が子供たちに「みんなの宝物は何ですか？」と尋ねると我が家の息子は「家の庭にあるすももの木です」と、大きな声で答えました。数年前に木の一部が枯れてしまい、危険になってきたので、その木を切ってしまいましたが、3月の末には真白な花を咲かせ、夏には実をたくさんつけ、その枝は日かげもたくさんつくってくれました。

夫が枝にタイヤやブランコをつけ、近所の子どもたちが大勢遊びに来ては、それぞれ木に登ったりブランコで遊んだりといつも子ども達の大きな遊ぶ声が響き、朝夕には小鳥たちのさえずりが響いていました。

すももの木は植えたのではなく、どこから種が落ちたのかいつの間にか大きく育っていた木だと聞かされています。自然に大きくなった木は子ども達の成長に合わせ、色々な遊びを提供してくれました。そんなすももの木を大きな声で『ぼくの宝物』といった息子に思わず微笑んでしまいました。

子どもが成長してしまうと、楽しかったことばかりが思い出されます。長い人生を振り返れば一時ですが、子育て真っ只中にいる人にとってはやはり大変なことも多いでしょう。

以前私が勤めていた幼稚園のあるお父さんが「子どもは親だけが育てるのではなく、多くの人に育てられて大きくなるんだな」と言っていたのが印象的でした。子どもたちを地域の中で育てていきたいですね。そして、町の中に木のぼりが楽しめる木がもっとたくさんあるといいなあ。と思う今日この頃です。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一瀬 牧子 さん (市川大門在住)

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 佐藤紀子さんのご紹介です。
マッコさんは1男3女の肝っ玉かあさん。「大丈夫、だいじょーぶ!!」と励ましのメッセージ
が 笑顔と一緒に届きました。



「子育て応援メッセージ」のお話が来たら、「私がメッセージ?」。とても
メッセージとはいきませんが、今までのことを思い出してみようと思いました。

私は高校時代に病気をして子どもは無理と言われましたが、なんとか長男を授かり、
翌年長女、そしてあと2人、女、女。7年間で4人出産できました。
私の体はどうなっているんだろう?と思いました。神様の授かりものとしか
思えませんでした。ただ元気に育ててほしいと願ったものです。幸いおっぱいもどんど
ん出て同時に2人にあげたこともありました。ドライブ中助手席で
おっぱいをあげた時、ピューっとふき出しフロントガラスに雨のように付いてしまい、
それを見ていた旦那がワイパーをかけて「それ、ちがうよね。」って笑ってしまったこと
もありました。

小学校の授業参観では、45分の間に3人みなければなりません。しかも

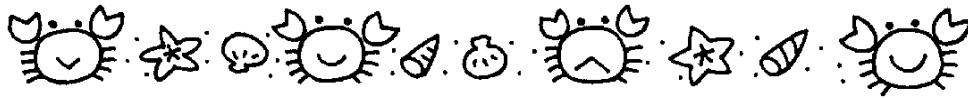
1階、2階、3階。1人の時間15分、夫婦で行くのですが、子ども達から順番の表
を作って手渡されました。1人あたり30分は親のどちらかが見ている計算ですが、2
人同時に1人の教室に入ってしまった時、すまして見ている旦那に「よく表を見てよ!」
などと言ってケンカ寸前。何をしにきたんだろう、授業など見るどころではなく、叱ら
れる始末。そんなことが数年続きました。運動会のプログラムもいつも子どもたちが書
き込んだメモがいっぱいで、てんやわんや。大変だけど楽しかった思い出です。4人が
1度に大きくなった感じです。

子育てといっても、「なるようにしかならない精神」で、自然体に育ってきました。兄
妹同士で人と人とのつながりも自然に勉強できたと思います。残念ながら兄妹のいない
私は、子どもたちがうらやましいし、私も入れてほしいといつも思っています。おとな
になっていく子どもたちに願うことは、赤ちゃんの頃から教会に行っていたので「いつ
も心の中に見えない神様を信じる心を忘れないでほしい」そう思うばかりです。それと、
笑顔が一番ですね。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

新津 朱美 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回は、前回メッセージをいただいた 一瀬牧子さんのご紹介です。
新津さんは、県の福祉専門職として30余年力を尽くされていらっしゃるようです。何か
困ったことがあった時、強い見方になってくれそうな素敵なお姉さんです。



仕事を続けながら、子育てをすることは、かなり難易度の高いことだと思います。一人の力ではとうてい出来ることはありません。私自身30年間仕事を続け、育児との両立ができたのは、なんといっても両親や祖母、夫の助けがあったからだ痛感しています。

当時はまだ、子育て支援策等が未整備でしたし、私の周囲でも学生時代の友人たちは、有名企業には就職しても結婚と同時に退職するのが世の常・・・のような時代でした。

幸い私は、28年前に育児休業が取得できる職種にいましたが、復帰後も変則勤務で夜勤もある中、低温注意報の続くマイナス5度の真冬の早朝に、1歳の娘を認可外保育所に連れて行く日々は、辛いものがありました。

母親が働いていることで、子どもの成長に何か支障があったらどうしようという心配が常につきまとっていました。交換ノートを作ったり、メッセージを録音したり、一緒にいられる時間は読み聞かせをしたり・・・たくさんの工夫と努力を試みました。

やがて2人の娘が成人した、数年前に届いた母の日のカードには、「私もママのような一生の仕事を持って、何事にも前向きにチャレンジする素敵(?)な女性になりたいです。」と記されていたことで、私の何十年かの懸念は消え去り、清々しい思いでいっぱいになりました。

親の背を見て子は育つと、昔の人の云ったことばを思い出します。ママが一生懸命なら、その姿が必ずわが子に伝わるのではないかと思います。子育ては（あつ、人生は・・・？）工夫次第かな？と思う今日この頃です。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

渡邊 和美 さん (市川大門在住)

2005年12月からいただいている『子育て応援メッセージ』は、今回30人目のメッセージャーを迎えることが出来ました。地域の子どもたちの育ちをたくさんの方が見守ってくださっているんだなぁとあらためて感謝です。

今回は、町の図書館司書として、現在は学校勤務をなさっている渡邊和美さんです。



一緒に絵本を楽しみましょう



アイ・ラヴ・ユー いつまでも

アイ・ラヴ・ユー どんなときも

「ラヴ・ユー・フォーエバー（あなたを永遠に愛します）ロバート・マンチ・作」

より

絵本を広げると、両側からのぞき込んでいた子ども達。懐かしく思い出します。お気に入りの「ぐりとぐらのかいすいよく」では畳を海に、布団を岩に見立てて登場人物しながら親子で遊びました。その子ども達も今では大学生です。その頃に読んでいた絵本は、聞いていた子ども達の声や笑顔がつまっている私の宝物です。今になってみると物語を一緒に味わえる貴重な時間でした。

心を豊かに成長させ、想像力を育んでくれる絵本。読み聞かせでは読んでいる人の愛情も伝わります。たくさんの物語を一緒に楽しんでください。温かいメッセージのこもった絵本を読んであげてほしいと思います。

私は下の子が生まれてから4年間、専業主婦をしていました。子育ては母が側にいてくれましたから心強かったのですが、1年目は上の子が幼稚園に入る前でしたので、子育て中の方との出会いになる場があると良いと感じました。「いちかわ親子わいわいネット」の活動は親子で楽しめて、子育て情報も得られる良い機会ですね。私は親子で図書館に通い、催し物に参加しました。その後、発足した図書館ボランティア「トトロ」に入りました。子どもを連れて子育ての話などしながら、製作や練習をするのは楽しかったです。子ども達は小学生になって小学生ボランティア「まっくろくろすけ」に入り、劇などに参加したのも良い経験でした。活動を始めて仲間と作品を作り上げ、本の世界を伝える喜びも知りました。また、子ども達の成長を見守り、子育てを励ましてもらえました。現在も自分育てとして学ぶことが多く、感謝しています。

「トトロ」では図書館祭り・クリスマス会に協力しています。ぜひ、一緒に絵本の世界を楽しみましょう。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

加賀美 文子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回のメッセージは渡邊和美さんからのご紹介で、図書館ボランティア「トトロの会」を主宰する加賀美文子さんからいただきました。

幼少期の読み聞かせの大切さを伝えると同時に、学校読み聞かせボランティアへも力を注がれていらっしゃるようです。

オリジナルの詩からは「近くにいるおじいちゃん・おばあちゃんをもっと頼りにしていいのよ」とあたたかいメッセージが聞こえてきました。



かげあそび

バーバとぼくのかげ 手をつなぐ 手をつなぐ
「ぼくね 大きくてつよい そうさんになりたいな」
「バーバはね 背高のっぽのきりんさん」
背中にいっぱい陽をうけて さあうごこ さあうごこ
「あっ見て！ ぼく そうさんになったよ パオーパオー」
「あら バーバはこんなにスマートなきりんさん」
さあかけよう さあかけよう
「きりんさん そうさんおもたいけど だっこできる？」
「だいじょうぶ！ どんなに大きくなってもだっこできるよ」

この詩は孫との遊びの一場面です。

元気いっぱいの2歳児を預かって一年。この年齢をなんと称すのでしょうか。私は秘かに『ちびっこギャング』と呼んでいます。降園後の3時間は悪戦苦闘の毎日で、母親に手渡す時は深いため息です。

ところがこの頃。不思議なことに、このギャングが帰ったあとに何とも言えない幸せ感や充実感を覚えるようになりました。《元気の素》を置いていくのです。どこのおじいちゃんおばあちゃんも、きっと同じ思いをされているでしょう。泣いたり笑ったり我慢するなかで、孫だけでなく私たちも成長しているのです。

若い両親の子育て方針を尊重し、預けてくれることにも感謝しながらしっかりサポートしていきたいと思っています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

遠藤 京子 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回メッセージをくださったのは、遠藤京子さんです。

この春、「子どもを真ん中においた地域みんなの居場所づくり」を目標に立ち上がったNPO みんなの広場・市川三郷の代表理事の遠藤さん。民生委員、ファミサポのサポーターとしても長く町の子どもたちを見守ってくださっています。

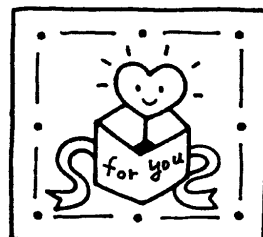


先日、子育て支援ネットワーク連絡会の研修時に、講師の田中先生が最近気になったニュースを2つ取り上げたうちの1つが、砂浜に作った落とし穴に自らが落ちて亡くなった若者のことでした。「あの人たちは子どもの頃に色々な遊びをしてこなかったのでしょうかね。『経験が判断力をつける』のですよね。」という話をしてくださいました。私も学生時代に「経験が知恵を育てる」と学びました。粹にはめた物でなく、自分で探して選んでという経験をする事により、人として、人間としての思いやりが育っていくということでした。

「思いやり」の心が育てば「しつけ」「しつけ」といわずとも自然に身についていくのではないかと思います。児童虐待のニュースのたびに、「しつけのつもりだった」という言葉が聞かれますが、虐待なんてことは勿論なくても私たち大人の都合で子どもをしつけてないでしょうか？愛する人、大好きな人の喜ぶことがしたいという心は大人より子どもの方がずーっと素直に表現できます。だからいろんな経験をさせながら何が心地よくて、何が心地悪いのか、親の目と子どもの目で確かめてみてください。

わいわい通信のバックナンバーの中に、「おいしいご飯をいつも用意するそれだけで子どもは立派に育つもの」というメッセージがありました。料理上手でない私はドキッとしますが、3食子どもを思って作ってはいられないとしても、そのことを心に止めて置くことで心地良い「子育て親育ち」ができていくのではないのでしょうか？

家族は勿論、町の子育て支援も利用しながら、心に余裕をもって今しか出来ない子育てを楽しんで欲しいと思います。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

齊 藤 美 佐さん （黒沢在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。加賀美文子さんからの紹介で今回メッセージをくださったのは、齊藤美佐さんです。メッセージの内容のとおり、長く読み聞かせボランティアをなさっている齊藤さん。現在も、町の中の子育て支援センターや地域の小学校で活動をされています。



子どもと一緒に健やかに脳を鍛える方法をご存知でしょうか？

ある脳科学者が、甘いものが好きな人にチョコレートを食べさせ、そのときの脳の状態の変化を調べたところ、脳からドーパミンなどの高揚感を感じた時に出る物質が出たとのこと。好きな人や尊敬する人からほめられた時や、目標を達成して爽やかな気分になっているとき、同じような現象があらわれるそうです。脳にとってほめられることは、美味しいチョコレートと同様の「ごほうび」でもあるのです。子どものみならず、いくつになっても人からほめられることは、後になっても余韻が残り、「もっと頑張ろう!!」と思ってしまう経験が私にもあります。

先の実験では、チョコを何度もくり返し食べさせるうちに、出るドーパミンの量がだんだん減っていくことも分かり、それが「飽きる」という事です。親が子をほめる場合もいつも同じようにかけるだけでは「飽き」がきます。我が子をよく見守って、変化をほめる。自主的にものごとを計画させて達成感をもたせるなど、要所・要所での確かな誘導をしてあげることが、結果的に子どもの「脳へのごほうび」になるんですって！さあ、Lets Try!!

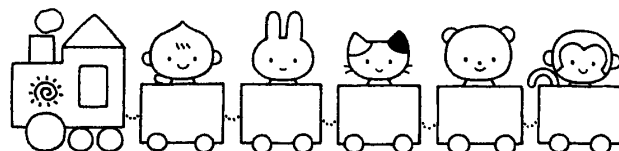
私事で恐縮ですが、読み聞かせのボランティアをはじめて、早いもので10年が過ぎます。その中で一番感じるのは、お父さん・お母さんが我が子にする読み聞かせこそ最高のプレゼント!!だと思います。

また、読書については、「人間だけができる特権」であり、どんな動物も読書はできません。読書には人生の花があり、川があり、道があり、旅がある。光があり、楽しみがあり、感情の海がある……。これからも読書からいろいろなことを学び、自身を豊かにしてもらいながら、子育て応援団として、私にできる事を精一杯させていただきたいと思っています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村松 美名子さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
斉藤美佐さんからの紹介で今回メッセージをくださったのは、村松美名子さんです。
男の子と女の子2人のお子さんのお母さんである村松さん。いつもにこにこ、おおらかにお子さんと接していっしょにいます。



“育児は育自” これは私がいつも心に留め、心がけている言葉です。“教育は共育”という言葉も、私の大切にしている言葉です。

お腹に子どもが宿り、母となる喜びを感じた時、出産の時の痛み、そして初めて母乳を口にした時のわが子の顔。何歳になっても忘れてはいけない、絶対忘れてはいけないと思っています。その思いを忘れず子どもと接した時、母の信号は必ず伝わるはずです。

わが子が、自分を他人と比べたり、卑屈になることを口にした時、いつも私が言うのは「他人と比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を比べてごらん。」ということです。そして「感謝の心を忘れない」ということです。

音楽の世界で活躍している中島啓子さんは小学校時代いじめにあっていたそうです。中島さんのお父さんの仕事の都合でどうしても引越ししなければならなくなり転校することになった時、中島さんのお母さんは「クラスの人たちにお礼をください」といったそうです。「なぜいじめっ子にお礼をしないといけないの。お母さんは味方だと思っていたのに」と、一時は抵抗したそうです。しかし、40人近くの同級生ひとりひとりに「ありがとう」と声をかけて回ったそうです。いじめっ子たちは「ごめんね」と謝ってくれたそうです。人を慈しみ、感謝する言葉は、自分自身の心も穏やかにしてくれる、『ありがとう』は魔法の言葉、とおっしゃっていました。

私は、クラス全員にお礼を!!といわれたお母さんの心の強さに頭が下がりました。

大変なことです、私たちおとなが、心に余裕を持ってありのままの子どもを認めてあげて、決して理想の子どもにしようとせず、生まれてきてくれた感動を忘れず、子どもを最後まで信じぬき、その強い心を育んでいきたいと心から思います。この原稿を書かせて頂き、本当にありがとうございました。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

望月 茂子 さん（上野在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。村松美名子さんからの紹介で今回メッセージをくださったのは、望月茂子さんです。メッセージの内容のとおり、お二人のお子さんを愛情豊かに育てられた望月さん。現在は、町の食生活改善推進員もつとめてくださっています。

♫いつのことだか 思い出してごらん あんなこと こんなこと あったでしょう♫
卒業・入学のころになるとふと頭をよぎるメロディ。そんなとき、子育て応援メッセージのお話をいただき戸惑いながらも思い出してみました。

不安と恐怖での出産は、長女誕生と同時に安堵と喜びに変わり、2年後の長男誕生で多忙の中にも幸せな日々でした。

しかし、娘が風邪から化膿性リンパ腺炎を発症。悪性かもしれないという医師の言葉にうろたえ、付き添いもできず泣くばかりの毎日でしたが、幸いにも良性で無事退院。この時ほど、母親として何もしてあげられない悔しさ・辛さ・切なさ・・・。

息子が5歳位の時、左肘を複雑骨折する事故の時は、泣きじゃくる息子に「大丈夫、大丈夫」と抱きしめていたせいか不思議と息子もおとなしく手術に臨んでくれました。

二人の子どもの入院を通して、母親の接し方、感情でこんなにも違いがあるのかと感じずにはいられませんでした。

東日本大震災から早一年、先日テレビの中で両手・両足がなくても電動車椅子で活躍されている乙武洋匡さんが、被災地の小学校を訪ね、少女の「手も足もない乙武さんが野球やサッカーができることが不思議です。何か魔法の呪文があるのですか？」という問いに、『大丈夫、大丈夫、大丈夫』と言っていると、できなくても、もう少し頑張ろうという気持ちになってくる。」と仰っていた言葉がとても印象的でした。今回の震災で励ましの絆が広がっています。被災された皆さんが、大変な中でも笑顔で“負けてたまっか”と頑張っておられます。お金も物も大切ですが傷ついた心の復興は、もっともっと大切です。

人は言葉によって励まされたり、傷ついたりもします。私の言葉で傷つけてしまった事も多々あります。「育児は育自」子育てはどうにか終わったものの、日々の生活の中で自分育ては、まだまだこれからも続きます。感謝の気持ちを大切に、今自分が出来る事をこれからも頑張って続けて行こうと思います。

このような機会を与えて頂き本当に、ありがとうございました。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



青柳 みゆき さん（高田在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
望月茂子さんからの紹介で今回メッセージをくださったのは、青柳みゆきさんです。
現在、市川三郷スポーツクラブ事務局として、地域の子どもから高齢者までの健康増進
や世代間交流を図る仕事をなさっている青柳さん。交通安全母の会でもご活躍です。



我が家には、27歳の長女と25歳の長男がいます。あんなにちっちゃかった2人がこんなに大きく育ち、「随分私も年を重ねたのだなあ」と最近感じています。今回「子育て応援メッセージ」のおはなしをいただき大変恐縮に思っていますが、子育て中の皆さんの少しでもお役に立てれば嬉しいです。

私は子供ができにくい体質で、不妊治療をしていました。ですから2人の子供が、わざわざ選んで、私のお腹に宿り誕生したときの喜びは、ひとしおでした。健康で五体満足であれば良いと思っていたはずなのに、いつの間にか、ほかの子と比べたり、自分の感情で叱ったりしている自分がありました。そんな時出合った本に、「子供は、未来からの使者。一人の人格者として向き合っていく中に、子供は大きく成長できる。」とありました。子育て1年生の私にとって衝撃的でした。あれ程待ち望んだわが子なのに、現実の生活に追われ自分の生活に合わせ、子育てする中で、知らず知らずのうちに自分の所有物になっていて、人として見るなんて考えもしなかったからです。少子化の中、私も含めて過保護な親になりがちですが、子供の意思を尊重できる大人になる努力も必要だと感じています。「子育ては、自分育て」とも言われる所以でしょうか。

2年前私は、体調を崩し、入院を余儀なくされました。家のことなど何も出来ないと思っていた長女が、家族のために料理を作り、家事一切をしながら、私の看病までしてくれた時、「何も出来ない」と思っていたけど、親の背中をきちんと見てちゃんと成長しているのだと嬉しく思いました。

子育て中の皆さん！子育ての期間は振り返ってみるとあっという間に過ぎてしまいます。辛いことも苦しいこともたくさんあるでしょう。でも、今だから出来ること、今しか出来ないことを大好きな大好きなわが子とともに楽しんではいかがでしょうか。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一 ノ 瀬 節 子 さん （高田在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回メッセージをくださったのは、一ノ瀬節子さんです。

県外から山梨に嫁いで30年…。3人のお子さんはそれぞれの道をみつけ家を離れ、現在は農業を営むご主人とお義母さまとの3人暮らしをなさっています。



私には3人の子供がいます。28歳の長男、26歳の長女、そして少し離れて20歳の次男です。

私達は、長男が9か月の時、山梨に越してきました。実家も遠く知り合いもない土地での子育ては、とても孤独でした。そんな環境の変化になかなか馴染めず、お昼寝が短い、離乳食を食べない、今思えば些細なことがストレスになり、子供に当たってしまいました。子育てを楽しむなんて程遠い状況でした。

子供達が幼稚園、小学校と成長していくに従って、私はとても口うるさい母親になっていました。「早く〇〇しなさい!!」を連発し、子供がやるまで待つことができず、先回りして手を出してしまうのです。

長男が3,4年生の頃、こんな出来事がありました。習っていた空手の大会で、途中、帯がほどけてしまったのです。試合は中断、結局自分では締め直せず、係の人に直していただきました。その時、主人に「日頃、自分でやらせないからだ!!」と叱られました。「全くその通り」返す言葉もありませんでした。

3人の子供達は、大学進学を機に、東京へ出ていきました。口うるさい母親から解放されて、楽しい学生生活を送ったようです。

一人暮らしも最初は心配したものの、上京した折アパートに寄ってみれば、部屋は綺麗に片付いており、山梨にいた頃とは別人の様でした。親がいくらうるさく言ってもできなかった事が、一人暮らしをしたら、いとも簡単にできるようになった。家にいた時は、親への甘えがあったのでしょうか。

こんな失敗だらけ、反省だらけの育児でしたが、その時、その時に一生懸命向き合っていたことだけは、子供達にも伝わっていると自負しています。その気持ち伝わっていれば、後は、しっかり放り出して、子供自身が自分の意志で物事を解決し、常識のある大人に成長してくれるのではないのでしょうか？

そして、私もしっかり子離れしなければと思う、今日この頃です。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

三 谷 敏 子 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回メッセージをくださったのは、三谷敏子さんです。

旧市川大門町に初めて学童保育ができてからこの春まで長い間、「友優の先生」をされた三谷さん。退職なさっても、児童館ボランティアや、外国の子どもに達に勉強を教えるボランティアなど、子どもたちのために広く活動されています。



市川チャイルドセンター子ども館友♡優が出来て 13 年が経ちました。

多くの子育て中の親子との出会いがあり、楽しい日々を過ごして来ました。

宮沢由佳先生の育児講座では「毎日の子育ては本当にしんどいですね。ご苦労様です。」と暖かい言葉で育児講座が終わります。

子育て中は、思い悩むことが多くあります。時には家事を手際よく済ませ、子育て支援センターに足を運んでみてください。子育てが大変な時こそ来館してみてもいいのではないでしょうか。

子どもは本当にふしぎです。おうちではお母さんの後を追いかけて、トイレまでもついてくる。また、おやつ等、ママの悩みが尽きません。

センター内ではお母さんからはなれ、友だちが遊んでいるおもちゃのそばで、いつの間にか遊びだしています。母親自身も元気でリフレッシュできる場所です。悩みを話し、気持ちを軽く明るくフンワリさせてくれます。

子育てを終えたお母さんが、「チャイルドセンターがあったから子育てができ、本当に良かった」と声をかけてくれたことがありました。

おしっこを失敗した子に強い口調で叱っているママのそばに行って、「おしっこの失敗は、やさしい言葉で、おしりが冷たいので着替えよう・・・の声かけが一番。」と小さい声で言ってあげました。次に来館したとき、「あの時、先生が止めてくださらなかったら、止められなかった。」と話してくれました。

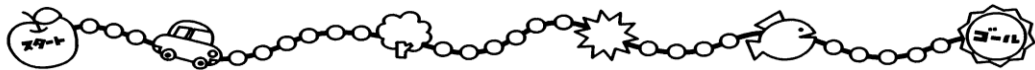
気持ちにゆとりがなくなってくると、怒らなくてもいいことで、子どもを叱ったり、大きな声を出してしまったりします。夜、子どもの寝顔を見て反省をする。そんなことをくり返す毎日から半歩でも前進するといいいですが。

長女が生まれた時、父が「子どもをあまり怒らないで育てるように」と言ってくれました。この言葉は今も忘れていません。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

赤池 初子 さん （市川大門在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。前回メッセンジャーの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、赤池初子さんです。昨年春まで、長い間町の保育士さんを務めてこられた赤池さん。退職なさっても、子育て支援リーダーとして、また「みんなの広場」会員として、町の子どもたちのために活動されています。



絵本の不思議な力

子どもの頃私が母親の実家に行くと、いつも祖父が自分の布団の中に私を入れて、いろいろな昔話をしてくれました。その温かさや想像をいっぱいふくらませるおもしろさは、50年以上過ぎた今でも忘れられずに心に残っています。

小さいころは誰でも昔話や絵本が大好きです。しかし、誰もが心に残るかはわからない事です。母親になった私の長女も絵本が大好きで、小さい頃よく読んであげたことを思い出します。その娘が里帰りしたとき、「わあ、懐かしい。この絵本小さい頃によく読んでもらったよね。」と本棚から取り出したのは、『こぐまのぼうけん』という絵本でした。表紙は色あせ、何度も読んであげたためか、どのページにも汚れがありましたが、娘にはとても輝いて見えた様子でした。娘も子どもに絵本を読んであげているらしく、「本屋さんに行くと私が小さい頃読んでもらった絵本がたくさんあって凄く懐かしくなるよ。絵本って流行がないんだね。と話したので、さっそく娘の子に『こぐまのぼうけん』を読んであげると、「こぐまさん、おかあさんにあえてよかったね。」と嬉しそうでした。そんな娘と孫を見ていると、現在と過去をつなぐ絵本の不思議な力を感じました。『こぐまのぼうけん』のあとがきに、こんな文章がありました。

“あたたかい太陽の光は、母親の愛情を思い出させてくれる。その中で子どもたちはぐんぐん育っていく。小さい者達は遊び疲れて帰途につく頃、豊かな母親のにおいを思い出す。あのあたたかい胸の中へ帰っていく。”

嬉しかったことは心に残り、嫌だったことは気持ちに残ります。いっぱい絵本を読んであげ、いっぱい本を読んでください。

心に残った私のおすすめの絵本と本です。

いもとようこ著 『花のかみかざり』

辻村深月著 『ツナグ』

三浦しをん著 『舟を編む』

東野圭吾著 『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

絵本と本のもつ不思議な力を感じてみてください。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

保坂 香 さん （中央市在住）

わいわいネットでは、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回のメッセージをくださったのは、保坂香さんです。たかた学童クラブの指導員をされている保坂さん。町内の図書館ボランティアや、子育て支援ボランティアにも所属して活動なさっています。



山日新聞の「すくすこ2013」子育て欄に、斉木洋子さんの「オバフォーママがゆく」のエッセイが載っているのをご覧になったことがありますか？筆者は40歳の時、息子さんを出産され、その子育て中の出来事のエッセイが抱腹絶倒で、とても電車の中などの人の多い所では読めません。子育て中のお母さんにぴったりです。第1、第3水曜日に掲載されていますので、ぜひ読んでみてください。

さて、私自身の事。主人の転勤の関係で、2歳になる長女、生まれたばかりの次女と共に、当時の市川大門町へ引っ越してきました。本が大好きな私は、市川大門町立図書館へ2人の子を連れ行ってみました。その時対応してくださったのは、司書の一ノ瀬さんでした。とても親切な対応に、育児疲れも吹っ飛び癒されました。それからたびたび図書館へ通い、図書館ボランティアグループ「トトロ」に入りました。メンバーは私と同年代で子ども達も同世代でした。子育ての悩みも代表さんやメンバーに話す事で解消でき、長男もこの頃産まれましたが、育児ノイローゼにもならず済みました。とても中身の濃い時間でした。主人の転勤でまた引っ越しがあって、今は中央市に住んでいます。

縁があって学童クラブの指導員をしています。イベントの時は、大型絵本の読み聞かせをしています。今年のクリスマス会で読んだ「くまのコールテンくん」は、普段やんちゃな学童のお友達がじっと静かに聞いてくれ、うれしかったです。ある時、1年生の宿題で「耳」のつくことばあつめがでていて、「耳なし芳一」と言ったら、「それ、どんな話？」と聞かれたので、話したらみんなじっくり聞いてくれました。

子どもさんは本やおはなしが大好きです。機会があるごとに本を読んだり、おはなしを語ってほしいと思います。

私は「トトロ」の活動や学童の仕事を通して、本が持つ不思議な力を感じました。ぜひみなさんも子どもさんに本を読んであげてください。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

田中 さとみ さん （市川三郷町高田在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、保坂さんからの紹介で、田中さとみさんです。
まだまだ小さい3人のお子さんの子育てをしながら、保育士をされている田中さん。町なかの
図書館ボランティアやコーラスグループにも所属して活躍なさっています。



私は、12年前に山梨へ嫁いできました。小5、小3、3歳の子どもの母になりました。まだ子育て真っ最中ですが、お互いがんばりましょう！という気持ちでメッセージを書かせていただきます。

12年前、頼りは夫と夫の両親だけでした。そのうちお寺の行事に参加したり、町立図書館へ行ったり、デイサービスでボランティアをしたり、市川小学校にお手伝いに行ったりして、知り合いが増えてきました。

子どもが生まれてからは、児童館のおひさまクラブや友優でママ友達ができました。それまでは知り合いは年上の方ばかりだったので、ママ友達はとても新鮮で、楽しい時間を過ごせました。

今は、高田保育園に勤め、同じ保育園に末っ子を預け、真ん中の子を学童に預け、たくさんの人に支えられて毎日過ごしています。

子育ては、とても一人ではできません。私はコーラスやトトロでの読み聞かせの活動や、保育園での仕事や、いろいろなことをやりたがりです。そして、どこへ行くにも子どもを連れて行きました。そこで、「かわいいね」「大変だね」「がんばってるね」など、子どもや自分に声をかけてもらい、とてもあたたかい気持ちになりました。そして、またがんばろう！と思いました。

子育ては、楽しいけれど、大変なこともたくさんあります。家族の支え、周りの人の見守り、仲間の励ましが頼りです。困ったことがあったら、まわりを見まわしてください。きっと皆さんを助けてくれる人や、見守ってくれる人や、気持ちをわかってくれる仲間がいます。

子育て支援の場所やイベントに参加したり、図書館やトトロの読みきかせに行ったり、ファミリーサポートや保育園の一時預かりを利用したりするのも、よいと思いますよ☆

子どもたちが、すくすく元気に育つように、一緒にがんばりましょう♡

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村松 優子 さん （中央市在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、田中さんからの紹介で、村松優子さんです。
町内で保育園の栄養士さんをされている村松さん。図書館ボランティアトトロに長い間
所属して活躍なさっています。



私の母は、当時では数少ない職業婦人でした。週休一日という時代でしたので、母と過ごす時間は短いものでした。そんな中で母を独占しゆっくりとした時間を過ごすことができるのは、私が病気になり保育園を休まなければならなくなった時だけでした。ストーブの上の湯気の立ち上る洗面器、おでこの冷たいタオル、私の布団に母も横になり読んでくれた数々の物語。熱が高く霞が架かった頭の中で物語達は夢と現を行きつ戻りつするのです。とても温かく幸せな時間でした。

小学生になっても母は仕事で忙しく、私は学校が終わると学童保育へという生活でした。父も時間の許す限り遊んでくれましたし、隣近所も何かと心に掛けて下さり寂しさを感じることは無かったと思うのですが、やはり母が傍にいない寂しさは大きく、幼い頃から『仕事を持たない母になろう』と固く心に決めていました。その後、私も母となり、末娘が入園するころまでは子育てに専念していましたが、縁あって仕事を持つこととなりました。仕事を始めても尚『仕事を持たない母になる』ことへの執着から葛藤の日々を送っていました。今、あの日々を振り返り思うことは、仕事を持つ持たない一、それはどちらでも良いことなのだという事です。母は忙しい日々の中でも時間を見つけて洋服やおやつを作ってくれ、一人の時間が寂しくない様にと沢山の本を置いてくれました。母の心はいつも私の傍にあったのです。選べない状況の中で出来ることを精一杯やるということが大切なのだと思います。

子どもが小さい頃は、お母さんは誰もがみな多忙で心にも体にも余裕がないのです。私もそうでした。疲れた時にはひと休みの時間を作り、そして、どんな時も心と目だけは絶対に子どもから離さないでください。本当にあつという間に子どもは大きくなってしまいます。それまであと少し・・・ファイトです！

皆さんの子育てや仕事を心より応援しています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

芦沢 祐子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、村松さんからの紹介で、芦沢祐子さんです。
この地域に生まれ育ち、ずっと地域を見守り続けてくださっている町のカメラ屋さんの
祐子さんです。町のみなさんの健康づくりにも力を発揮してくださっています。



私には27歳と25歳の二人の子供がいます。この二人の子育てがちゃんと出来たのかは、答えが出ません。

子育てに正解なんてないからだと思います。今になってみると反省する事は数えきれない位ありますが、すでに遅しと言う所です。

ただ、楽しく子育てした事だけが記憶に残っています。

我が家は、父、母、夫と子育てに協力してくれたのでとても助かりました。皆が気づいたときに「しつけ」をしてくれました。

私が心掛けた事は「食育に力を入れる」、「悩み事は夜考えず、まず寝て明日の朝に考える」、「朝出かける前には、できるだけ怒らない」の3つです。

“悩みも朝の忙しさと薄れ、子どもが帰って来る頃には怒ることも忘れてしまう”という感じになります。

家の中で誰かが怒っていると気分が良いものではありませんね。

だから怒っても長びかせない様に今も心がけています。

努力もしてきましたが、二人の子供にとっては口うるさかった様でした。

家族で一人位は口うるさく言う人が居ても良いと思っています。

こんな家庭に育った二人は、親戚や、近所のおじちゃん・おばちゃん、先生、お友達に育てていただき、伸び伸びとした大人になりつつあると思っています。

自然にサポートしてくださる人が沢山いた事、相談できる友達がいた事は、とても幸せでした。

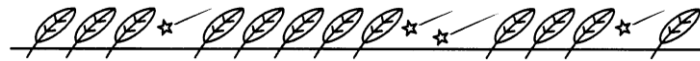
子育て中の皆さんも、悩み事があったら一人で悩まずまず誰かに話してみてください。

きっと、話を聞いてくれる人が近くに必ず居るはずですから。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一瀬 富枝 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、芦沢さんからの紹介で、一瀬富枝さんです。
一瀬さんは、長年のお仕事を終え、今は家庭を支えると同時に地域交流を大切にお過ごしです。地域の合唱団では素敵な歌声をひびかせてくださっています。



私は、昨年、家庭の事情により、30年勤務していた職場を早期退職し、現在は主婦です。会社員の主人と24歳と22歳の息子と義父の5人暮らしで、家族の食事、洗濯、掃除と主婦業にどっぷりつかり、せっせと家事に勤しんでいる毎日です。

仕事優先の生活から、家事優先の生活となり、時間的、精神的にも少しゆとりが持て、主婦業を楽しんでやっています。

2人の息子の子育てをしていた頃が、今のようだったらどうだったろうかと、ふと考えたことがあります、ある時、2人の息子に聞いたことがありました。

「あなた達が生まれたときから、ずっと仕事をしていたから、いつも仕事優先で、毎日忙しくて、さびしいと感じたことはなかった？」と。

すると、二人とも、

「物心ついた頃から、お母さんは仕事をしていたから、それが当たり前のことで、保育園や学校から帰って来てもいなかったけど、肝心な時はいつもそばにいてくれたから、寂しいなんて思わなかったよ。」と。

それを聞いて、仕事と家事と子育てで毎日忙しく、余裕をもって子ども達に接してあげられなかったという反省の念ばかり強かったので、ちょっぴり安心したのと同時に、子どもは子どもなりに、親のことをしっかりみていてくれたんだな、と感じた時もありました。

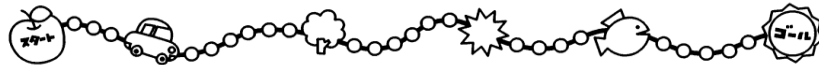
今は、仕事、子育て、家事と両立が当たり前のようになり、日々、生活に追われる毎日で、様々な悩みやストレスがあり、子育ても理想どおりにはいかないことの方が多いのかもしれませんが、けれど、子どもの心に寄り添い、しかし客観的に見つめる目も持つて接していくと、迷いもなくなるのではないのでしょうか。

親はいくつになっても親です。卒業はありません。子どもがやがて親になったとき、親の大変さやありがたみがわかってくれ、感謝してもらえればそれでいいのだと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

八木 玲子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、一瀬さんからの紹介で、八木玲子さんです。
八木さんは、現在、ご主人とお父さまとの三人暮らし。ご主人のお仕事を手伝いながら、市川大門で過ごされています。学生時代、バスケットボールの選手として、全国的に活躍した3人の息子さんたちを、支えてこられた素敵なお母さんです。



子育てが始まり27年目になります。夢中で過ごした月日を振り返りますと、色んなことがありました。

仕事と子育ての両立、指しゃぶり、排せつの自立、兄弟げんかへの対応・・・など数えきれないほどの悩みがありました。主人や両親に助けをもらいながら、一つ一つの事柄に何とか対応していた、不安ばかりが募る毎日でした。

今は子育てへの応援活動がたくさんあります。それらを活用しながら多くの方とコミュニケーションを取り、色んな情報を得て、その中から自分に合ったものを子育ての悩みや問題解決に役立ててください。

子育ては決してきれいごとでは片づけられませんが、大事なことは子育てをする人それぞれの心の持ちようかなと思います。先に述べたように、周りの人たちの助けを借り、一人で悩まずに子育てをしてください。いつの日か必ず、「あんな時があったね」と笑って話せる 때가来ます。

3人の息子は今、親元を離れて生活しています。早くに家を出たこともあり、みんな親離れをしています。母親の私といえば、情けないことに未だにあれこれと心配をし、子離れできずにいます。

でも今、過ぎ去った時間を思う際に、立派な息子達ではありませんが、「なんとかなったかな?!」と思えるようになりました。誰しも親の経験をしてから親になるのではないのです。子どもが日々成長していくように、親も成長していけば良いのです。子どもが親を親にしてくれるはず。親も子もたくさんの失敗があると思いますが、不安にならず、たくさんの大きな愛で包んであげてください。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

佐野 陽子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、八木さんからの紹介で佐野陽子さんです。
町外から〇年前に市川に嫁がれた佐野さん。その明るくあたたかな人柄で、人の輪を広げ、町の中でいきいきとお仕事に、子育てにと過ごす姿を目にします。



私は、はじめてのおつかいというテレビ番組が大好きです。幼い子供が母親から頼まれた品物を買に行ったり、届け物をしたりと、ハラハドキドキしながら楽しむことができる番組なのですが、そこには小さなドラマがあり、家庭や生まれ育った環境により子供がそれぞれに成長していく姿が垣間見られます。

田舎で祖父母と一緒に暮らしている3歳の子が親戚の家に届け物をするシーンでは、途中、近所の方に声をかけてもらいながらたどり着くという内容でした。

また、都会に両親と弟の4人暮らしの子は、デパートにおつかいに出るのですが、以前、父が自分を楽しませてくれたことを弟にしてあげようとする姿が映し出されていました。

これらの映像から、子供は家族だけではなく地域の皆さんによって育てられているということや、親が思っている以上に、幼いながらもたくましく育っていると感じられました。

私は、いつの間にか幼いころのわが子の姿を重ねながら、子育てはそれぞれ皆違っていいんだと改めて思いました。

我が家には、現在24歳、22歳の息子と18歳の娘がいます。嫁いだ時には誰一人知らない私でしたが、主人や父母に支えられ、また3人の子ども達を通して、多くの方と知り合うことができ、お世話になり楽しい日々を過ごしています。

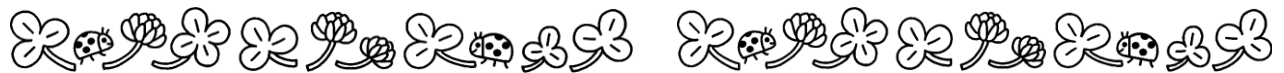
今思うと、幼い子供たちに口ぐせのように話していた言葉があります。それは、「どちらにするか迷った時は、自分が後悔しない方を選ぶこと」、それは結果がどうであっても、自分で決断したことは、責任を持つことによって何かを得ることができると思ったからです。

成長と共に視野も自然と広がってきますが、広い世界に目を向け、いろんな人と関わりを持ち、そこから多くを学び、のびのびと育ってほしいと思っています。やがて親は子に学ぶようになるのかもしれませんが、それも楽しみなのではないでしょうか。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村松 文江 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、村松文江さんです。3人のお子さんは大きくなり、印刷屋さんのご主人と一緒に過ごしています。ご自宅前のガーデニングやデコは、そこを通るたびに私を楽しませてくれています。そんな村松さんから春風のようなメッセージが届きました。



新聞を見ていると最初の晩餐。というA J I N O M O T Oの広告に目を奪われました。
かわいい赤ちゃん達の表情が何とも言えません。そしてー。

世の中に甘さや苦さを、人生で初めて知るのは、食卓でした。

甘い、酸っぱい、塩っぱい、苦い、うま味がある、粘っこい、滑らか、硬い、柔らかい・・・。

たくさんの味や触感に出会い、乗り越えることで、
子どもの一生は味わい深いものになっていく。

この表現にニンマリです。食育から子育て、そして人生を感じました。

子育ては大変ですが、何気ない毎日が贅沢な時間に思えます。考えてもみない
気づきや学びがたくさんあります。
子育てを通して幸せをもらったと感謝しています。

心のオアシスのような図書館、そして保育園、幼稚園、学校、子育て支援など、
町には応援団がたくさんいます。

被災地に何度も足を運び、歌で力づけてきた平原綾香さんは「頑張れ」とは言えず、晴れ晴れとした顔『顔晴る』という言葉を実を日々使うそうです。

みんな、顔晴りましょう♡

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

丹沢 静江 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、丹沢静江さんです。児童館・おひさまクラブや、
たかた学童クラブの指導員として、赤ちゃんからママまでを見守る笑顔のすてきな先生
です。

「みなさん、ぜひ“おひさまクラブ”に遊びに来てください。」



市川大門に嫁ぎ30年余りの月日が経ちました。子ども達3人の子育てをたくさんの方に関わっていただき助けてもらいながら、なんとか3人の子ども達を育てることができました。子どもを育てるという事は本当に大変な事だと思います。

児童館ではカウンセラーの川邊修作先生による『ぽかぽか相談室』が行われています。子育てをテーマにいろいろなお話をしてくださいます。その中で、赤ちゃん返りのお話の時、私は我が子の姿を思い出しました。

それは3番目の子どもが生まれた時の事です。2番目の娘は4歳でした。娘はけなげに小さな弟のおむつをたたんでくれたり、おむつを取り換えてくれたり、ちいママのように頑張ってくれました。ところが突然「ちいママ」と呼ばれることを怒り、「おむつして！」「ミルクちょうだい」と言ってきたのです。まさしく赤ちゃん返りです。私はいつもお姉さんをしてあげている娘とのギャップにびっくりして、受け入れてあげられず、「お姉さんなんだからおかしいよ」と言ってしまう、その時の娘の気持ちに寄り添ってあげられない母でした。できるものならその時に戻って抱きしめてあげたい思いになりました。

先生のお話を聞くたびに私はいつも反省ばかりです。その時に、川邊先生の『ぽかぽか相談室』があつたら良かったのにと感じてしまいます。

子育て中のお母さん、悩んだり、どうしていいかわからなくなってしまう事もあると思います。ひとりでかかえないで話を聞いてもらおうと心が軽くなります。どうぞ『ぽかぽか相談室』に来てみてください。

町内には、子育て支援センターや児童館があります。子育て中のお母さんたちと話をしたり、同じくらいの子ども達と遊んだり、ちょっとした気分転換ができて楽しめると思います。利用してみてください。

子育て中のお母さん、心より応援しています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

砂田 雅子 さん （上野在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
わいわいネットのメンバーで、子ども館友優学童クラブの指導員としてお仕事をされている
砂田さん。図書館ボランティアとして三珠や市川地区のたくさんの子ども達におはなしと笑
顔、そして想像のつばさを届けてくださっています。



子育てをする中で得たものはたくさんありますが、中でも私にとって大きな出会いは『絵本』でした。

子ども達といろいろな本を読みましたが、子どもよりも私の方が夢中になってしまったという感じです。図書館で手に取った一冊の本の影響で、「親子三代 100 年読み継がれた本が良い」と知り、少しずつ読むところから始まり、“子どもの本の推薦リスト”を頼りに興味があったり好きと思う本を選び出し、絶版だと聞くと益々読みたくなり図書館や古本屋さんで探したりという楽しい日々でした。

そして、同時に自分自身が小さい頃の絵本との関わりを思い出しました。子どもの頃見た絵本というものは無条件に懐かしく、私にとって特別なものになっていました。私の子ども時代は豊富に絵本があったわけでもなく、家にあった絵本をその時に好きで何度も読んだからなのか、何度も読んだから好きになったのか、好きだという自覚も無いままに意識の中に刷り込まれたような気がします。その本を開くと、“どこで読んでいた”とか“そこに流れている空気感”なども一緒に蘇ります。大人になってから、子ども時代に読んだ本がその人にどれ程の影響を与えるかを知りました。物語の中で体験した事が自分の生きる上での知恵になり、力となっているという事もわが身を振り返り納得しました。そんな本との出会いを子ども達にもして欲しいという願いからお手伝いしてきたという感じです。

自分の子ども達に読んで聞かせることが高じて図書館ボランティアをしています。絵本の選書には個人の思いが入るので、なるべくたくさんの方々から読んでもらえるといろいろなジャンルに知り合えていいなと思います。私がその一員としてお役にたっているかは別として、お話の世界を他人と共有する喜びや、上手く読めた時の喜び等、私にとって良い経験を与えてくれました。

別の世界に入りこみ、その空間に浸る時間は宝物です。一人でも多くの子どもたちがそんな時間を持てますように願っています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

大野 美智子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
砂田さんの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、大野美智子さんです。
じどうかん学童クラブではたくさんのお母さん代わりとして、児童館おひさまクラブでは若いママたちのお姉さんとして、日々奮闘中です。



♪おかあさん、ありがと 毎日毎日ありがと♪
みなさんは、このうたをご存知ですか？
そう、某味噌メーカーのCMソングです。



息子、中学1年の春。他町のサッカーチームに入り、誰も知り合いがいないところでの、3泊4日の合宿前日。

二人で、練習着は何枚・・・ソックスは入れた？・・・具合が悪くなったら薬はこの入れ物ね・・・と荷物準備をしていた時のこと。

不意に息子が ♪おかあさん・・・♪って1フレーズだけこのメロディーを口ずさみました。普段「ありがとう」なんて言葉を口にしない息子でしたが、気持ちは持っているのだなと嬉しく思い、、そしてその1フレーズで息子の合宿への不安感や緊張感が伝わってきて、、

涙がホロリとしたのをおぼえています。

「クソババー」っていっちゃうような反抗期も
こちらの顔もみないで、ドアをバタン！！って閉めちゃうような思春期も
あのときの息子が顔を出します。

そして今、
先日、県外で大学生活をしている息子の所へ行きました。
のほほんと、自由人を満喫している息子が、しれっとした顔で「まだまだ迷惑かけるけど、よろしく！」と言ってきました。
「何？それ！！」と半分呆れ、半分笑いながらも、自分のことはさておき、今日も一生懸命働いています。

♪おかあさん ありがと 毎日毎日ありがと♪
あの歌が頭の中をグルグルめぐるります。
さあっ、さあっ、まだまだがんばれるっっ！！がんばるよー！！

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

武藤 紀子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、武藤紀子さんです。青少年育成カウンセラーとして、まちの子ども達を見守っていらっしゃる武藤さん。 ライフワークである朗読活動では、町の行事の名司会者として、みなさんも一度はその声をお聞きになったことがあるのではないのでしょうか。



ちょっと待ってて、あとで……言い過ぎたかな…

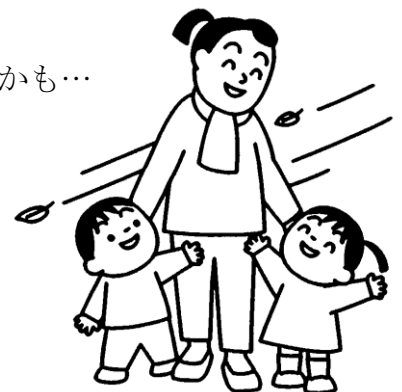
あの時見た夕焼けの赤さ、思わずきれい~って土手の道で立ち止まって見とれちゃった

つないだ手にぎゅっと力がこもって、見合わせた顔が夕日に染まって赤くなっていた…

冬の朝、きのうは水たまりだったのにうっすらと氷が張ってる
ていねいにひとつひとつ両足でばしゃっばしゃっと踏んで氷を割って行く
一緒に見た夕焼け、一緒に割った氷…
一緒にいたかけがえのない時間

子どもがいちばん安心できる場所はお父さんの腕のなか
子どもがいちばんうれしいのはお母さんの優しいまなざし
どこにも行かなくても、何も買わなくても
お母さんの目が自分に向いていることがいちばんうれしい
同じものを見て笑ったり、驚いたり、
一緒に時を過ごすことがいちばん
忙しいけど車でぴゅーっと行かないで、
時には手をつないで歩いてみて
道ばたの石ころに、河原の小さな花にときめくことがあるかも…
急がないで、ゆっくりゆっくり
しゃがんで子どもと同じ目の高さになってみて
わすれていたものが見えるから…

…かけがえのない時間



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

古屋 詔子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回のメッセージをくださったのは、古屋詔子さんです。十余年間、町の教育委員としてご尽力くださり、子ども達を守り育ててくださった古屋さん。市川大門児童館がオープンするまで、長くボランティアで子ども図書館を開いてくださっていました。現在も、朗読・短歌とことばのうつくしさを大切にされています。

子育ては親育ち

私には四人の娘がいるのですが、今はそれぞれの場でそれぞれの仕事を頑張っています。親子六人、10畳の部屋にずらりと枕を並べ寝ていた時のことは、思い出だけで心が温くなり何とも貴重な時代だったことに気付かされます。

今子育て中のお父さんお母さん。子どもと共に過ごせる時間はそんなに長くはありません。一番忙しいのですが、一番大切な、一番成長できる時代に思えます。この若さに輝いている貴重な時代を大いに楽しんで、子どもと共に成長してください。

私は二つのことを楽しみ、大切にしました。

その1つは絵本です。どの子にも毎日絵本を読みました。同じ本を何回も何回も読まされました。それはお気に入りの証拠だからです。自分の好きな絵本も読みました。少しむずかしいものも読んであげれば大丈夫です。自分でも作ってみました。よい絵本の中には全ての世界が詰め込まれています。絵本は子どものくもりのない目や心の感性で見える世界で、本当は大人のための本に思えます。

もう1つ。子どもには本物に触れさせたいと思いました。音楽・美術など（本当は自分が一番嬉しいのですが）、天井桟敷で聴いた名コンサート・「鳩を抱いた少女」のフラゴナールの絵など、今思い出しても感動がよみがえってきます。

昨今若者たちがなかなか結婚せず、少子高齢化が日本中で進んでいます。

仕事をし、結婚もし、子育ても楽しくできる豊かな社会でありたいものです。

わが町は、歴史的にも文化の高い地です。これからも文化・芸術の豊かな健康な地域づくりを応援していきたいと思います。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

薬袋 洋子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回のメッセージをくださったのは、薬袋洋子さんです。

長年県内の私立中高で教鞭を執られ、学校長としても子ども達の教育に尽力なさった薬袋さん。現在も幼稚園の理事、町の子ども子育て会議委員、また「みんなの広場」の会員として、町の子育て支援に関心をもって関わっていらっしゃる日々です。



二組の親子から

ある冬の日、町立図書館の入り口で婦人物と女兒用の二足のブーツがきちんと並んで置かれているのを見かけました。この親子は今どんな本を探しているのだろう・・・とほのぼのとした思いで二人の姿を想像しました。

また別の日のこと。バスに乗っていた私の視界に、手をつないでバスを待っているお父さんと3歳くらいの男の子がとび込んできました。子どもはお父さんを見上げ何か二人で話している様でした。バスが停まるとお父さんは子どもの背をそっと押して、バスに自分の足で乗り込ませました。この若いお父さんの耳にはピアスが光っていました。風の冷たい日でしたが、温かい気持ちになりました。

この二組の親子のことが時折思い出されます。普段の生活の中で自然に躰をしている。また親子が一緒に過ごすなかで自分の足で立つ、そんな心が育てられていると。

「子育て」とは何か特別のことではない様に思います。親と子が互いを大切にしたい、親が子どもを一人の人間として認めて生活する中で子どもは「人格」として成長するのだと思います。親に愛され信頼されていると実感すると、子どもは自然に夢や希望を持つようになっていくのだと思っています。とはいえ多忙な生活で親子の時間が充分に取れないと悩むことは多いでしょう。一緒に過ごす時間が少なければそれだけ互いの気持ちは理解し難くなるでしょう。

私も仕事を続けていましたので母に全面的に協力してもらいながら娘たちを育てました。その中でまず第一に大切にすることは子どもとの時間を持つ事でした。就寝前の子どもと一緒にベッドで本を読むこと、時には芝居がかって声色まで工夫して自分も楽しんだものです。この喜びは独り占めせずに夫と分け合いました。勿論入浴時間もそうでした。もう一つ欠かさずに実行したことは、娘達が中高時代の通算10年間、毎日お弁当を持たせた事です。お弁当の食べ具合で体調等を知ることが出来たり、中身についての感想やそれにまつわる友人との会話の様子も聞く事が出来、娘たちを知る一つの手段となっていました。「おいしかった」の一言に励まされながら・・・。

人生は発見の連続だと思っています。日々成長しているお子さんを発見する喜びをかみしめつつ、お子さんとの時間を大切にしたいと願っています。心から応援しています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

望月 洋子 さん （鴨狩津向在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回のメッセージをくださったのは、望月洋子さんです。

以前は、幼稚園の先生としてご活躍なさっていた望月さん。現在は、民生児童委員として、赤ちゃんから高齢者まで地域のみんなを見守ってくださっています。



私が母親になれたのは、もう 30 年以上前になります。何回かの流産を繰り返し、お腹にいるときから過保護だったり生まれて来るまで不安だったりしながら、無事に元気に産まれてきてくれる事だけを願っていました。長男が生まれ、2 年後に長女が生まれ、家族に支えられながら何とか母親として頑張っていました。いつの間にか慌ただしい生活の中で子育てを楽しむ余裕が薄れ、健康でさえあればと思っていたのに“早く早く”、“ダメダメ”が増え、ここで褒めるとき、ここで冷静にしっかり叱らなければというタイミングより、母親の感情で怒ってしまったりと、今思い返しても反省ばかりの日々でした。

そんな中で唯一、夜眠る前のおやすみタイム、絵本や物語を、毎日布団に入って一緒に楽しむときは、本当に穏やかな時間だったような気がします。何度も同じ本を読んだり、物語を「また明日ね」とワクワクしながらつづきにしたり、それは私にとっても、子ども達にとっても、かけがえのないひと時でした。

私は今、図書館の読み聞かせボランティアをさせていただいています。

絵本の中にスーっと入って目を輝かせる子ども達に出会うたび、本の豊かさ、不思議な力に気付かされます。

現在忙しく子育て中のお父さん・お母さん、毎日ほんの少しの時間で大丈夫、親子で絵本や物語を楽しんでみてください。

“あんなに怒っていたのに” “あんなにすねて泣いていたのに”、それでもきっとその時間が、いつもの親子に戻してくれると思いますよ。

応援しています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援!!子育ての輪

佐野 ともみ さん (岩間在住)

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、佐野ともみさんです。
家業の建築業をご主人と共に守る佐野さん。3人の野球少年を、守り支え育てられている、とても明るいすてきなお母さんです。



私は3人の息子に恵まれ、現在43歳となりました。長男は18歳、次男は17歳、三男は8歳です。これまで人並みに色々な事がありましたが、3人共それぞれに目標や夢を持ち、自分たちの居場所を整えつつある今、親が直接手助けする場面は少なくなりました。あえてその様に心がけてもいます。ですがその分、耐えて見守る親の精神力を試されている時期に入ったかなと思います。

この夏、長男は強豪校野球部の主将として最後の大会に挑みました。彼が背負った重圧は私達親にとって計り知れぬものでしたが、携帯電話が禁止の寮生活ですので、いろいろな様子を尋ねて励ますわけにもいきません。試合の当日、応援席より精一杯声援を送るのみでした。負けた時、声をかけ肩をたたき合い、一緒に立ち上がってくれたのは私達親ではありません。共に努力してきた仲間です。そんな仲間をたくさん得たのだと思った時、私達親は子育ての一つのステージを終えたのだなと感じました。

高校が内定し、兄と同じ野球部への入部も決まっていた次男は、不慮のけがを負い、入学式直前に手術を受けました。術後、ベッドに寝ている次男の姿を見て私は「なぜこんなに野球が好きで高校野球を夢見て努力してきた我が子がこんなことに…」と、涙が止まりませんでした。しかし、息子はけがを負った時から一度も弱音を吐かず、後ろを振り返らず現実を受け止めて手術を選択し、リハビリとトレーニングを続けたのです。1年後、彼は背番号をもらい公式戦で打席に立ちました。私達親にとってこれまでの子育ての中で一番辛いことと、一番嬉しいことの両方を味わった出来事でした。

子育てに終わりは無いように思います。子どもの成長する段階で、親もステージが切り替わるだけです。だんだんと親側が子どもに与えてしてあげるものは減って行き、共有する時間も少なくなって行きます。でも子ども達のこれからの境遇をしっかりと見守り精神的に支えて行けるのが家族です。私達親も今後もますます勉強し続けて行きたいと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

加藤 満美子 さん （岩間在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、前回のメッセージャー佐野さんからのご紹介、
加藤満美子さんです。

加藤さんと佐野さんは、同じ野球チームに子ども達が籍を置くスポ少・母仲間。子どもたちを真ん中にしてこんなふうにも人の輪は広がってゆくんですね。ママ友って、子育てがちょっとつらい時も話を聞いてくれる・わかってくれる…すてきな存在ですね。

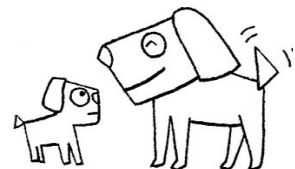


私には、少年野球を頑張っている 11 歳の長男、知的障害があり支援学級に通っている 8 歳の次男、イヤイヤ時期真っ只中の 1 歳の三男がおり、毎日慌ただしく賑やかに過ごしています。

次男の知的障害が発覚したのは、小学校入学前に行われる町の就学時検診で指摘されたことがきっかけでした。小さい頃から歩き始めるのもおしゃべりも遅く、発達がスローペースでした。2 歳から保育園に入園しましたが、集団行動が苦手でお遊戯や歌では誰よりも目立ってしまっていました。そんな姿を見ていて、「長男の時とはどこか違うな」と感じていたので、ある程度は覚悟していたつもりでしたが、知的障害だと確定した時は、やはりショックを受けました。多分、障害児の母親が一度は考えるものだと思いますが、「なぜ私の子どもが…」「私のせいだ…」と自分を責めたりもしました。しかし、次男はどんな時でも明るく素直で、周りの人達に笑顔を与えてくれます。そして努力を惜しみません。そんな姿を見て、私達家族の元に生まれてきてくれた次男を、家族全員で助けていき、一人で生きていけるように成長を見守っていこうと強く思うようになりました。

現在は支援学校で勉強しています。様々なトラブルは絶えませんが、担任の先生はもちろん、学校全体で次男を温かく見守ってくださっています。そして何よりクラスのお友達が次男のことを受け入れて支えてくれています。本当に幸せな環境に恵まれています。

次男の将来を考えると悩みは尽きません。この子は高校に行けるのか、就職できるのか、自立した生活を送ることができるのか、結婚できるのか、子どもを育てられるのか…。障害児を育てるには私はまだまだ未熟者です。おそらくこれから先も、ずっと悩んで学び続けるんだと思います。それでも次男が無事に親の手もとから巣立つことができるよう、気長に厳しく!!育児していこうと思います。



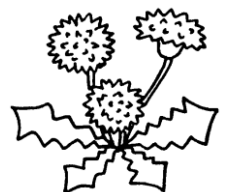
《子育て応援メッセージ》 みんなが応援!!子育ての輪

村松 てるみ さん (上野在住)

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、村松てるみさんです。
旧三珠町に「子育て支援センターすくすく」が誕生した時から、たくさんの子育て中のみなさんにエールを送ってくださっているてるみ先生。「びっくりポン!」の出産体験もちょっとのぞかせていただきました。



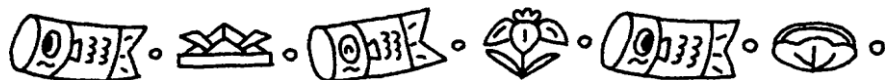
私には三人の娘がいます。二女、三女は一卵性の双子です。もう 30 余年も前になりますが、子育てをしていた時のことは忘れられない思い出です。長女が 1 歳半の時に双子が誕生しました。生まれるまで双子とはわからずに、一人生まれると「もう一人お腹の中にいます。」と言われ私を含め家中の人がビックリしました。その頃は超音波もとらず、胎児の心音も一つしか聞こえていなかったのもので産科医も私も気づきませんでした。そして 1 歳半の長女の下に双子が生まれたのです。それはもう大変。夜は何度も授乳で起き十分に眠ることもできません。双子を抱っこすると「私も抱っこして!」と長女が足にしがみつきの……。そんな毎日でした。しかし、多忙な中でも子育てにおいて大切にしていたことがあります。「子どもはかけがえのない宝物」「子どもとしっかり向き合うこと」「子どもには育つ力がある」「親の背中を見て育つ」「子どもはお母さんの笑顔が大好き」ということです。そうして子ども達は成長し、昨年は 6 月に三女が結婚、7 月に長女が出産、8 月に二女が出産と超多忙な毎日を過ごしました。今、子ども達も子育て真っ最中。最近近くの子育て支援センターに出かけてきたそうで、「ママ友ができたよ。」と嬉しそうに話してくれました。心細い初めての子育てが少し楽になった瞬間です。今は子どもが安全に安心して遊べる場所がありません。それに、子育ての情報が多すぎて逆に迷ってしまうお母さんもいます。そんな時、子育てママ同士が繋がり、良い環境の中で子育てすることが必要です。そのような環境の一つを担っているのが子育て支援センターだと思っています。また、子ども達が成長してからも、子育てに迷った時にこの支援センターに来て話をしてくれることを嬉しく思います。子どもが健やかに、お母さんが楽しく笑顔で子どもと向き合えるように、いつもお母さん達を応援しています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村松 智子 さん （上野在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
前回メッセージャーからの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、村松智子さん。
ご自身も3人のお子さんの子育てを楽しみ（アンテナの伸ばし方はさすがです）現在進行形の村松さん。三珠ではお習字の先生としてもご活躍です。子育て支援活動をしている私達への応援にも聞こえる素敵なメッセージをありがとうございます。



母になって8年、毎日幸せに包まれています。この幸せは、私の元へ来てくれた3人の子供たちと、支えてくれる家族や友達、周りの方々のお力添えがあるからこそ。

8, 5, 2歳と3人の子育て真っ只中の私が、日々を過ごす中で大切にしていること。それは『ない』ことにフォーカスするのではなく、『ある』ことに感謝し、『知りたい』ことは子供たちと共に学び身につけていくこと。そして日々を丁寧に過ごし、『私は私の人生を生きる』ということ。

子供を授かり、子育て一年生だった私が、学びを求めて一歩踏み出したら、その機会はたくさん用意されていました。支援センターやファミサポ講習会、県や独自主宰の講座等へ積極的に参加しています。ボランティアとして国際交流活動や学校の読書ボランティア、ガールスカウト活動等にかかわることで、子供と共に、地域や国にとらわれず、視野を広げ経験値を高めることにつとめています。私が子供たちに示せること。それは、ことばで何かを指示したり教えこむのではなく、日々を大切に過ごす親としての姿勢を子供たちに見せ続けること。これに尽きると思っています。

私は3人の子供たちの母親であるけれど、母親である私は、私という人間の一つの側面、役割に過ぎない。子供とも、ママ友とも、家族とも、相手が誰であれ、常に一人の人としてお付き合いすることを心がけています。そして、相手が大切にしていることを大切にしたら、私のことも大切にしてくれる。実感としてそう感じています。人生は、日常の一つ一つを自分でセレクトすることで作り上げられます。何を見て、何を感じて、何を選択していくのか。それは、私自身にゆだねられた自由。だからこそ、本物に触れ、生きていく上でのセンスを磨きながら丁寧に生きること。これが、私の自分軸です。

自然豊かで、子育てに優しいこの町に出会えたこと。それが私たちにとっては何よりのギフトかもしれません。いただいたこのギフトに感謝し一瞬一瞬を大切に過ごしていきたいと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

佐野 康子 さん （上野在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
前回メッセージからの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、佐野康子さん。周りのみんなをホッと和ませてくれる癒し系の佐野さん。しかし、一緒に子育て研修会では、いつも最初にご意見を述べられたり質問をされたりと積極的。国際交流の活動にも力を注ぐ行動的な女性です。



私は、7才と4才、2人の娘の母親です。母になって7年、心配も倍になりましたが、喜びも倍、楽しい毎日を過ごしています。

7年前、不妊治療に通い1年半を過ぎ、「これからの私の人生の2年間を治療に専念しよう」と、職場に退職届を出した5日後に分かった神様が授けてくれた長女の妊娠。退職はせず、長女が1才の時、職場復帰へと。大声で泣き叫ぶ長女を託児所に預ける時は、身を引き裂かれるようで、私も涙が溢れてきた事よく覚えています。「はじめてのあんよ」は見られないかな？と寂しい思いでいましたが、はじめてのあんよ、トイレでおしっこ、母の気持ちを感じとってか一番にみせてくれました。嬉しい気持ちと共に、家庭は全ての基盤となる事。子どもは離れていても親の気持ちが伝わり、期待にこたえようとするところがある。過度な期待をかけ重荷にならぬようにせねばとも。

私は今、介護の仕事をし、お年寄りの方によく言われる事。「大変な時だけだね。子どもがちっちゃいうちは、うんと幸せな時なんだよ。」と。この言葉をよく思い出し、心に刻み。また認知症の方は、お子さんが小さい頃にかえられる方が多い。女性として輝いている時なんだと、痛感せざるを得ません。日々成長する子どもたちの今しかない時をギュッと抱きしめて過ごさないともったいない。

私はあれこれ先回りしてしまい、おっぱいもトイレトレーニングも、余計辛い思いをさせてしまいました。我が子といえど、違う人間、人格。子どもの気持ちに寄り添い、尊重し、信じて待つ事。また、母親の仕事は無限大、日々学び続けること。身に降りかかった災難から、環境問題を考える。山梨の豊かな自然の恵みに感謝し、季節を慈しみ、本物に触れる機会を沢山つくる。原因不明の長女の蕁麻疹から、食について考える。今出来ることを一つずつ。生活に根ざした主婦にしかできないことを地道に続け、いつか何かに繋がると信じ、子どもと共に歩んでいきたいと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援!!子育ての輪

内藤 由美 さん (大塚在住)

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。子育てをきっかけにベビーマッサージを勉強するなど、子育ても暮らしも前向きに取り組まれている内藤さん。「今が一番いい時よ」という地域の方からのことばは「かわいい子どもたちの姿をみせてもらってありがとう。私たちの方が元気をもらえたよ!」と私には聞こえてきます。



私は5歳(長女)4歳(長男)2歳(次男)の3人の子どもに恵まれ、子育て真っ最中。年齢を見ての通り、歳の近い子どもが3人。笑いや思いもよらない事が多々起こる毎日です。

いつも子ども3人と行動を共にしているからでしょうか、不思議と見ず知らずの方からよく声をかけて頂いて、「今が一番いいときよ」必ずと言っていいほど、どなたも会話の終わりにはそうおっしゃいます。毎日を無我夢中で過ごしている私には気にかけて声をかけて頂く事が嬉しく、その言葉に涙することがたびたびありました。その言葉を心に刻み「一日一日を大切にしていきたい」と思い日々を送っています。

とはいえ私も母親5年生。子育てが不安になっては子育て講座に足を運び、児童館に行っては先生にいろいろと相談に乗って頂き、そして周りには素敵な先輩ママさんたちにいろいろ教えてもらっては胸をなでおろしています。

「兄弟げんかは危険な場合以外は見守りましょう」というお話を聴いてから、心がけているのですが、頻繁ゆえに口を出してしまったり、自分の感情を押し付けてしまうことも多々あり、まだまだ私自身反省と学びの毎日です。

長女は時に驚く言葉を言い、既に私が助けられ、救われています。子どもは良く見て、感じています。親の私たちの方がたくさんの事を教えてもらっていると実感しています。そして気をつけなければならないとも思っています。

大切にしているのが、食事と読み聞かせです。次男に食物アレルギーがあり、そのため食に対して今まで以上に気にかけるようになりました。毎晩の読み聞かせもしてあげられるのは限られた期間だけと思い、欠かさずしています。

外に出れば近所の方々が子どもたちに手を振ってくれ、声をかけて時には危ないよ!! 気を付けてね!!と言ってくれる。お兄ちゃんやお姉ちゃんたちが遊んでくれる。

市川三郷町に越して来て3年、ご近所の方々がいつも見守ってくださり、温かい地だと感謝しながら毎日を過ごしています。主人の両親に助けてもらいながら、今を精一杯全力で駆け抜けています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

土橋 梨津子 さん （大塚在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
前回メッセンジャーからの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、土橋梨津子さん。男の子3人の子育てはとても大変なはず…。でもどんな時も前を向いている土橋さん。こんな素敵なお主人やご家族、地域の方の支えがあるからなのだろうなと思いました。

我が家には10才と8才、3才の息子達があります。3人の男の子に恵まれ、毎日賑やかで楽しい日々を送っています。

長男が8か月の時に市川三郷町に引っ越してきました。初めての子育てで、わからない事・不安な事がたくさんありましたが、児童館に行って相談に乗って頂いたり、毎日のお散歩では地域の方々に声をかけて頂いたり、誰かに話したり相談に乗ってもらう事で私の心はずいぶん軽くなりました。そして何よりも大塚から見える景色が素晴らしく、2才になった長男と手を繋ぎ、生まれた次男をベビーカーに乗せ、毎日毎日夕焼けの中をお散歩しました。一日の終わりにこの夕焼けを見ては感動し、自然豊かなこの場所で子育てできる事が、とてもありがたく感じました。

次男が幼稚園に通う頃、三男を妊娠。私はとてもつわりがひどかったので、同居している主人の両親にとっても助けてもらい、出産するまでを何とか乗りきることができました。子供達は3人に増え、そしてみんな男の子。赤ちゃん返りの激しかった長男に夜泣きのひどかった次男、日々いろいろな事が起こる中で、一緒に住んでいる主人の両親がいてくれた事が、本当に助けとなり、支えとなりここまでやっていくことができました。主人も育児にとっても協力的だったのでみんなで助け合い、日々の生活を送る事ができています。周りの家族や支えてくれる人達に感謝の気持ちでいっぱいです。

困った時、助けてほしい時にすぐに手を差し伸べてもらえる事、そして自分自身も子供達もそんな人がいたら自然と手を差し伸べる事ができる。そんな暖かい環境、地域がもっともっと広がっていったら嬉しく思います。

10才になった長男は少しずつ私と距離をおいて反抗するように。3才の三男はかわいい盛り。それぞれの今を大切に、日々を過ごしていきたいと思っています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援!!子育ての輪



今村 有希 さん (市川大門在住)

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、今村有希さんです。笑顔のやさしい、穏やかな有希さんは元気な2人の女の子の現役のおかあさん。いつも一生懸命で子育ての学習会にも積極的に参加されています。「いつか次の方に…」、この言葉に、今子育てを支援している方も励まされることでしょう。



子育てをし始めて7年が経ちました。のん気な割に気弱な私が母となり、なんとか娘二人が育っているのは、家族は勿論ですがファミサポの皆様始め学校、幼稚園、児童館、学童の先生方、地域の方々の力強いサポートがあるお蔭だと思います。いつも本当にありがとうございます。

生前大好きだった祖母に「今が一番いい時なんだぞ」と言われた事があります。子供が生まれ何気ない日々皆で囲んで笑っている時や寝顔を眺めているときなどふと思い出します。子育てしてつらかった時も時間が経ちいい時の仲間入りするものもあります。これからも子供と一緒に“いい時”と“いい時になった”思い出を積み重ねていきたいです。

日本は戦争のない世の中になり久しくはありますが、災害や不意の不幸など何が起こるか分からない時代になってきました。子供達にはどんなことがあっても平常心を保って乗り越えていく強さを持って欲しいと思います。

いざその時に、自分の中に積み上げた思い出が心の支えとなり、愛されていた記憶が自己肯定となり、一番の味方になってくれるものだと思います。

まだまだ親になって7年しか経っておりません。以前サポートして頂くばかりで何の恩返しも出来ず悩んでいた私に、ファミサポの高室先生が「この先出来る時になったら返してくればいいのよ。」と言ってくださったことがありました。この言葉で甘えさせて頂いてもいいのかなと本当に気持ちが楽になりました。

やはり人間一人ではなかなか生きていくことは難しいと思います。育児も加われば尚の事です。今はしっかり甘えて、そしていつかこの頂いた恩を次の方に返していこうと思います。そうして人の輪は回っていくのかな。

どうぞこれからも宜しくお願い致します。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

立川 良子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
前回メッセンジャーからの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、立川良子さん。先日、おばあちゃんと手をつないで歩く良子さんの娘さんに会いました。満面の笑みで楽しそうに歩く娘さんの姿に、メッセージの通り、お母さんから良子さんへ・そして娘さんへとつながっている、しっかりとした愛情を感じて心がポカポカになりました。
大丈夫！みんなで子育て応援していますよ。



私には4才の娘がいます。母親になって4年、つまずき、転び、その度に試行錯誤しながらも家族や地域の方々、そして何より娘の笑顔に支えられて楽しい日々を送っています。

私自身が母親になって娘と接する中で、自分の幼少の頃の事や母のことをよく思い返します。どんなに忙しくても声をあらげることなく、どんなに疲れていても体調が悪くても子どもの事を一番に考え平然と振る舞う母。内職をしながら家事に子育てに奮闘する姿。どの母を思い返してもいつも笑顔で穏やかで、家の中は笑い声にあふれていました。その姿を思い返す度に「私は母の様にきちんと母親になれているのだろうか」と自問してしまいます。

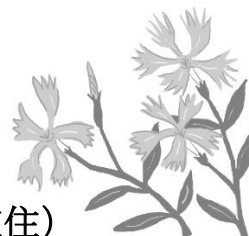
先日義父が亡くなりました。火葬場に向かう途中、長年勤務した会社の前を通りクラクションでお別れをしました。娘の前では・・・と我慢していた涙が一気にあふれ出したその時、小さな娘がさっとハンカチを出し私の背中をさすってくれました。それはいつも娘が泣いた時に私がしているのと同じように。私が母を見てきた様に娘も私の姿をしっかり見て覚えてくれているのだと実感すると同時に、優しく成長している娘の姿に少しだけ母親としての自信を得ることができました。

子育ては正解がなく、手さぐりで不安いっぱいのもので。それでもお母さんが笑顔でいれば子どもも笑顔になれるのだと思います。「親が子を守る」だけではなく、「親も子に支えられている」ということを忘れずに、ゆっくりと深呼吸しながら子育てを楽しみたいと思います。

顔を合わせれば皆挨拶を交わし、声をかけてくださる、そんなあたたかい環境の中で、地域の方々に見守られて子育てができることに感謝をしながら、わずか4才の新米ママ、これからも頑張ります。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



青沼 親子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回のメッセージをくださったのは、青沼親子さんです。

今年から市川三郷町愛育連合会の会長になられた青沼さん。先日の子育て支援フェスティバルでは、はいはいよちよちコンテストの司会を務められ、こどもたちにあたたかいエールをおくっていらっしゃいました。

愛育活動を通して感じたこと

愛育会では、通年、いきいき健康課で行っている乳幼児の健診時に、保健師さんの補助をしています。乳児の時は、検診の順番が来るまで広間でお子さんをあやしたり、おかあさんたちと談笑したりしています。日頃の子育ての様子を聴かせてもらったり、時には私たちの子育て・孫育ての経験などを話し参考にしてもらっています。こんな時、2人目・3人目の赤ちゃんのおかあさんはゆとりもあり、何があっても動じないという感じが伝わってきますが、まだ1人目のお子さんのおかあさんは少し様子が違います。細かなところまでの質問が多くあります。そんな時は、それは子育てを終えた愛育会員にとっては、その時期の貴重な経験と捉え一緒に考えてみるようにしています。

5歳児健診の時は、からだの成長を測定し、母子手帳に記入しています。動く子供をなだめつつ誤差が無い様に測定するのは、なかなか難しいものです。でも、今も昔もこの手帳は大切に家で保管されているに違いありません。そう思うと気の引き締まる思いです。

「母子手帳」・・・私はこの手帳のことを少し調べてみました。この手帳は昭和10年代に愛育会本会が発行した「妊産婦手帳」として生まれました。当時、妊婦の証明書代わりにもあり、お米の配給が手厚くなったといえます。1948年には出産後の乳幼児期の記録も含めた「母子手帳」になりました。これが現在の手帳の原型になりました。1986年に小児科医として母子手帳の重要性を痛感した中村阪大教授はまずインドネシアに広めました。その後JICAが技術協力事業を開始したこともあり、発展途上国で広まり、現在では世界30国以上の国で活用されています。一昨年は世界規模の大会が東京で開かれ、これからは人口の多い中国でも取り入れるとの報告がありました。国内では東日本大震災以降、岩手県ではすでに電子化されていたので津波などで紛失した妊婦には早速再発行されたと聞いています。また、長期、短期に関わらず留学するにあたっては、予防接種の種類や有無を各機関に提出する際にもその証明になったりします。何よりも母親・子供の成長の『証』を行政が証明してくれる心強い一冊です。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

畑川 茂 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
今回のメッセージをくださったのは、畑川茂さんです。
今、あの頃はわからなかった、今だからわかってきた親の思い。あらためて思う。
「お母さん、ありがとうね。」



「母の思い出」

母は、昭和46年2月26日に亡くなった。52歳。肺ガンだった。46年前のことである。

亡くなる前年。昭和61年に亡くなった父がお墓を新しくした。母は、そのことがよほどうれしかったらしく、毎週のように、お墓参りをしていた。

大学生だった私は、なぜ母がそんなにお墓参りするのかわかりませんが不思議だったが、深く考えることもせずにいた。

今思えば高校生だった妹や大学生の私のことや心残りはたくさんあったことだろう。今、母の無念さを知ることができる。

私は毎朝お仏壇に向かい、亡き父母、義父母、姉、義弟、我が家と娘の水子やご先祖の霊に向かい、家内安全とともに、我が家を見守ってくれていることへの感謝の祈りをささげている。

私も還暦を過ぎ、娘たちも巣立ち、孫も生まれ、改めて、わたしの小さな命を育ててくれた父母への感謝を思わずにはいられない。

そして、母がなぜお墓参りを頻繁にしたのかもわかりかけてきた。私には、1歳年上で2歳という幼いころ亡くなった姉がいた。母は毎週その姉に、妹のことや私や父のことを報告にお墓参りを重ねたのだ。2歳でなくなった姉のことは、毎朝毎晩、母の胸中を去来していたことだろう。姉を亡くした無念さ、寂しさが母の胸を大きく占めていたことは想像に難くない。

お母さん、大変だったね。辛かったね。そして、ありがとうね。仏壇に向かい毎朝話しかける私である。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

依田 昌子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

今回のメッセージは、子育て現在進行形の依田昌子さんからです。

絵本って本当にすてきですね。「もう一回読んで！」と息子にねだられ、苦笑いのパパの姿がまるで見えるようですね。



絵本との出会い

新米ママも4年目になり、息子は、この春に保育園に入園しました。

入園するまでの3年間は、児童館に行ったり、図書館に行ったり、子育てイベントに参加したりと地域の方々とふれあう中ではじめての子育てを経験しました。

息子が1歳半の頃、ママ友達に誘われて町立図書館のお話の会に参加しました。図書館の先生や図書館ボランティアの方が手遊びをしてくれたり、大きい絵本を読んでもくれたりしてとても楽しく、毎月参加するようになりました。

それまで小さい子どもを連れて図書館に行くのは少し抵抗がありましたが、お話の会へ参加するようになってからは図書館に行きやすくなり、絵本をお借りして、毎晩読んであげるようになりました。

また、毎日のように息子と児童館に遊びに行っていたので、その帰りには「先生とお話をしたい」と言って必ず図書館に寄り、なかなか帰らず困ったこともありました。

図書館には、しかけがある本やおもしろい絵がある本など、子どもも大人も楽しめる本がたくさんありました。中でも、食べ物に関する絵本は、お腹が空いてしまうぐらいきれいな絵で、息子のお気に入りです。

寝る前にパパと絵本を読むことが習慣になりましたが、「もう1回読んで！」と、何度も繰り返し読まされ困らせていました。

保育園に通うようになってからは、自分で絵本を読むことが出来るようになり、ますます本が好きになったようです。

本の楽しみ方を教えてくれた市川三郷町立図書館本館が10月いっぱい閉館となりました。とても寂しいですが、新しい図書館でたくさんの素敵な本に出会えることを楽しみに、読み聞かせを続けていきたいと思っています。

最後に、たくさんの親子が夢のある絵本にであえますように……。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

高木 夏奈 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
依田さんからの紹介で、今回のメッセージをくださったのは、高木夏奈さんです。子育てグッズの手芸やお菓子作りと、子育てを楽しんでらっしゃる高木さん。子どもたちと一緒に出掛ける児童館ではそんな楽しい情報交換の声も聞こえてきます。



今年の春、第2子となる男の子を無事出産することができて、現在、4歳長女と8か月長男の育児に日々明け暮れています。

長女は赤ちゃん返りからの反抗期(?)で、親の言うことは全く聞かず、毎日毎日私もイライラする事も多くなってしまっています。下の子の出産のため予定より早く保育所に行くことになってしまった「ねえね」。保育所に行き、他のお友だちのすることを見ているとついつい我が子と見比べてしまったこともありました。そんな時に町の保健師さんから、下の子の思春期体験のお手伝いのお話がありました。

当日、持っていく資料をそろえながら、上の子を出産した時の事を思い出しました。生まれてすぐに泣き声が聞こえて、すごく安心したのを覚えています。その後、母乳をあげながら、はじめて抱く新生児の柔らかい体に「かわいいなあ」というよりもこわれそうで怖かったです。お腹いっぱいですやすや寝ていると「もしかして呼吸止まってる!？」と、そおっと鼻のところにティッシュを持って行って確認したりもしました。今となっては笑い話ですが当時は必死でした。そんなことを思い出して「ああ、そういえば上の子が生まれた時は“生きていてくれればそれでいい”とおもっていたなあ」と反省しました。“生きていればそれでいい”、某お笑い芸人さんも言っていた「生きてるだけでまるもうけ」。子育てはまだまだ続きますが、とりあえず元気に笑って生きていってくれば、それでいいかな・・・と思います。

これから先もいろいろ悩むこともあるとは思いますが、子どもたちが生まれてきた時の気持ちを忘れずに、親子で成長していきたいです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



仲 亀 蘭 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

2人の元気な男の子のおかあさんの仲亀さん、今では、県外から嫁いで来られたとは思えないほど、たくさんの子育て友だち、趣味友だち、そしてあたたかいご家族に囲まれて伸び伸びとお過ごしです。他所から来たから感じる事ができたこの町の人々のあたたかさ…、読んでいる私たちへのエールとも感じるすてきなメッセージです。

町民会館・町民体育館に寄せて

私が千葉県より嫁いできたのが七年前です。知り合いは親族のみ、周りを囲む山々を見てホームシックになったのを今でも覚えています。

そんな状況を打開しようと図書館に通い本を読み、寂しさを忘れ夏の暑さを凌いできました。

第一子を妊娠した時、母子手帳の発行を受けたのは町民会館の保健室でした。同じ頃に子供が産まれるお母さん同士、つわりの悩みや妊娠期の体の変化などを話し、気が紛れたのを覚えています。妊娠中の母親学級は町民会館の和室で行われ、悩みや不安は自分だけじゃないと安心したものです。

子供が産まれてからは、子育ての悩みを気軽に話せる友達を・・・と支援センターへ毎日のように通いました。同世代の友達ができたのは、本当に嬉しかったです。現在も一足先に新しくなった児童館の支援センターや他の支援センターに二人の息子共々お世話になっています。

当時、誰も知らないからと家にこもっていたら今の私はなかったでしょう。ホームシックになった当時が嘘のように、出会った方々に恵まれて今を過ごしています。市川三郷町の人の優しさ、温かさ、すべてが私の心の支えです。町民会館は私と山梨を繋ぐとても大切な場所となりました。

町民体育館も私たち家族にとって、とても大切な場所です。主人の友達とチームを組み、町民ソフトバレーボール大会に出場し、わいわい言いながらボールを追いかけてました。また、上の子の初めての幼稚園運動会も町民体育館でした。子供の成長を感じ、その姿に感動したのを昨日のことのよう思い出します。

今、町民会館・町民体育館がその役目を終え、新しい姿に変わろうとしています。私が関わった年月は短いものです。しかし、そこでの出来事や思い出は色褪せることなく心に残るでしょう。

これからも「人と人を繋ぐ」場所として、新しい町民会館・町民体育館の完成を心待ちにしています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

丹沢 かず美 さん (高田在住)

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回のメッセンジャーは丹沢かず美さんです。メッセージのバトンを繋いだ仲亀さんは、「好奇心旺盛、すごくアクティブな素敵な女性」とかず美さんを紹介してくれました。今は育休中のかず美さん、きっとひとり娘さんの子育てを思いっきり楽しんでいらっしゃるでしょう。



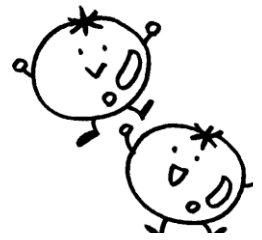
「食」って大切！

「なんだか一日のうちのほとんどをキッチンで過ごしているよね」 数か月前のママ友との会話です。大人の朝食と子どもの離乳食を作って、食べて、片づけ・・・間もなくすると昼食の準備の時間がやってきます。初めての育児で要領が悪いのかもしれませんが、キッチンにいる時間が長く感じていました。

私たちは三度の食事で栄養を摂りからだを作ります。おなかにいる赤ちゃんは、へその緒を通してお母さんから栄養をもらい、それを材料にしてからだを作っていきます。“赤ちゃんはお母さんの食べた物で育つ”この話を聞いたとき、私はドキッとしました。私の食事、大丈夫かな？甘いもの、食べすぎかな？と。そこで私は、妊娠中に必要な栄養素を調べて食生活を見直しました。健診でエコーを見るたびに聞こえる心臓の音や、お腹の中で一生懸命おっぱいを吸う練習をしている口の動きなどを見て、順調に育っているとわかって安心しました。そして昨年三月、無事に元気な女の子を出産することができました。母乳をよく飲み、今のところ離乳食も良く食べてくれています。

先日、ドラマや映画になった「はなちゃんのみそ汁」のモデルの安武信吾氏（はなちゃんのお父さん）の講演を聞く機会がありました。『あなたは子どもに何を遺せますか？』という演題でした。はなちゃんのお母さんは、がんを患いながら、幼いはなちゃんにみそ汁づくりを教えていました。生きるために大事なことを手取り足取り娘に教えて旅立ったのです。講演の中で安武氏は「食べることは生きること」これを子育ての基本にしているとおっしゃっていました。「食べることを蔑ろにすることは、命を蔑ろにすることだ」という言葉も胸に響きました。

娘は一歳を迎え、離乳食も大人の食べ物から取り分けたりすることができ、私のキッチン時間も短くなってきたように思います。しかし、作ることや食することにかける時間や労力を惜しまないことを心がけ、「食」を大切にしていきたいと思っています。そしてそれを娘にも伝えていく子育てができたらいいなと思っています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

齊木 祐子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

「子育て応援…」なんて、私にはと思いましたが、いつも私たち親子を支えてくださっている町の方、声をかけてくれる近所の方、子どものイイところに共感して一緒に伸ばしてくれるわいわいネットの先生方、そこで出会えたお友達とお母さん方に感謝を伝えられたらと思いました。

こんなうれしい一言を添えて、今回メッセージを寄せてくださったのは齊木祐子さんです。



きっかけの一言

子どもを授かることができたなら何だってする。私はそう思っていました。TVなどで、「子育て大変!!」と愚痴を言う親を見て、私だったら絶対あんなふうにはならない。だからどうか……。と願っていました。

今の私はどうでしょう。2人の子どもに恵まれ、家族の助けもあり、とっても幸せ。……。でも大変!!「早くしなさい。」「ダメでしょ。」「何回言ったらわかるの?」そんな言葉を子どもに言ってしまい、毎晩、何でこうなんだろうと反省するのに、朝になればまた同じことのくり返しです。そんな私にヒントを与えてくれた一言がありました。

私は子どもと一緒に毎日のように子育て支援センターに行っていました。長男はこだわりが強く、いろいろな場面でハラハラしてしまう毎日でした。ある日、おもちゃを箱ごと出しては部屋中にばらまき、どんどん広げてしまいました。私が「あーあ、もう、そんなに色々広げたら…」と困ったその時でした、「ダイナミックに遊んでいて良いよね!」そう言われて私は一瞬ぽかんとしました。それは、あるお母さんが言ってくれた一言でした。えっ?このため息をつきたくなるような状況がダイナミック!?私が、子どもの乱雑でダメなところと思っていたことを、「空間いっぱいに使って遊んでいてうらやましいよ」とプラスに言ってくれたのです。びっくりしたのと同時に嬉しくなりました。私もそう考えたらいいんだ!と、心が軽くなりました。

4月から園生活が始まった長男。今日も朝からブロックを部屋中にバラまいて遊び始めます。(あーあ……。)と思いつつも(うん、うん、今日もダイナミック!)と思い直します。その時の子どもの目はキラキラしています。広がっているのはおもちゃではなくて、子どもの想像のステキな世界。そう思えるようになったきっかけをくれたこの一言にとっても感謝しています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

望月 里奈 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。今回メッセージを寄せてくださったのは望月里奈さんです。「市川に夫婦で住み始めて 15 年ほど。市川のみなさんは温かくて、息子も地域の皆さんに育てられています。」以前勤めていた福祉関係の職場では、スタッフさんはもちろん利用者さんからも可愛がられているそうです。



子育ては「わくわく」「ゆるゆる」

私はいわゆる高齢出産でした。夫婦二人の生活は 10 年以上。三人家族ってどんな感じ？高齢というリスクが多く言われ不安でしたが、わくわく楽しみにその日を待っていました。1 ヶ月早く生まれた息子は 2000 グラム程と小さく「ママの為に小さく産まれたのね」などと声を掛けてくれた方々。心配し疲れた顔の私を見て言ってくれたのかもしれませんが。その息子は 3 歳になりました。かわいい盛りですがとてもやんちゃ。走る、走る、とにかく走る。不意にドカツと飛びついてくる。これがとても痛い。いつも何かと戦い、高い所から飛び降りる。ハラハラ、心も体も毎日へとへとです。ああ、母の為ではなかったかと笑い話です。

ご近所のお誘いで地域のいきいきサロンへ息子は最年少メンバーとして参加し、おばあちゃん達に可愛がってもらっています。ある日、高齢出産の話題になり「自分たちより若いんだから大丈夫！」と子育て大先輩の言葉に元気をもらった事もありました。

この夏、子育て支援センターが新設されますね。支援センターは時々利用しています。先行く親子は私と息子に刺激がありました。息子は大きい子の真似をして遊び方を知りました。まだ少しですが、順番を待つことを覚え、「ごめんなさい」とお友達に言えるようにもなりました。一人で遊んでいたのに、お友達とも遊ぶようになりました。そうそう、はじめて歩いたのは支援センターでした。私は心配事を話しママ達は経験を話してくれる。もちろん息子に当てはまる事ばかりじゃなくて、ママとの価値観も違うこともあって。でも色んな子がいるんだ、いいんだ。ママもみんな違うから。ママや先生の話は私をホッとさせてくれます。入園までもう少し利用する予定ですが、これから通う親子さんに今度は何か役にたてたら嬉しいですね。

このように息子のおかげで出会いや経験は多様になり、私の世界は変わりましたが、わくわくした気持ちは今も続いています。私の子育てはまだまだこれからです！毎日笑顔でいられるよう体力温存でゆるゆるとがんばろうと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

小林 郁 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

「頭で思っているだけではなく、たまにはこんな風に自分の考えや思いを残すことも大事ですね！」というメッセージを添えて寄せてくださったのは小林郁さんです。普段は学校でたくさん子どもたちと過ごす小林さん。育児休暇中のこの時間を3人のお子さんと思いっきり楽しんでおられる様子です。



今だけの特別な時間

ただただ愛おしく、守ってあげなければ生きていけないと思っていた娘達。いつの間にか自分の世界を広げ、自分の考え方を持ちながら、この手を少しずつ離れていると感じる瞬間があります。

我が家に三女が生まれたのはちょうど1年前。産休目前での突然の入院に動揺し、どうか無事に産まれてきて欲しいと願ったことが昨日のように思い出されます。その娘も2人の姉の姿を間近で見ながらすくすく成長し、言葉通り「転んでも立ち上がる」ことを覚えながら色んなことに挑戦する毎日です。時には手を貸されることを嫌がりながら、自分でできた時の喜びをキラキラの笑顔で表現する姿を見て、自分でやり遂げる醍醐味をもう知っているのかと驚かされます。

まだ幼いと感じていた上2人の娘も6歳と4歳になり、「分かってる!」「今やろうとしてたの!」と、かつて私が親に言った覚えのある言葉が返ってくるようになりました。大人のやることも良く見ていて、まさに痛いところを突かれた指摘までするようになりました。親が教えるよりも友達に教えてもらってできることが増えていく……。親が思っている以上に、しっかり自分の足で歩みを進めていることに気付かされます。

そんな時「子どもとこんなに濃い時間を過ごせるのも案外短いのでは」という思いが頭をよぎりました。時間に追われ、ついお小言が多くなってクタクタ。ああ、自分の時間が欲しい!!と思っていたはずなのに、焦りや寂しささえ覚える不思議な感情。そして、「どうか無事に…」ただそう願ったシンプルな気持ちを思い出し、随分欲張りになっていた結果のお小言だったと実感します。何だか勿体ないことをしたものだと思いつつ、私の反省の言葉に共感を示してくれる育児仲間にどんなに救われたことか。

明日こそ!と少しでも穏やかな自分を目指して奮闘しつつも、なかなか思うようにならず喜怒哀楽の振り幅が大きい毎日です。でも、だからこそ、振り返った時に懐かしく胸がギュッとする特別な思いを残してくれるのかなと思えるようになりました。そう思わせてくれた子どもたちや周りでそっと支えてくれる人達に感謝しながら、必死ゆえに頭でっかちになっていた荷物を少し下ろして「今」を楽しみたいと思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

木谷 綾香 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。小林さんの紹介で、今回メッセージをくださったのは木谷綾香さん。地域の中で伸びやかに育つ2人の娘さんの姿がまぶたに浮かぶようです。そうそう、この町、ちょっと周りに目をやると、「子育て・頼りたい！気持ち」が溢れていますよ。



頼ってもいいんだ

4年前に長女が生まれ、初めての子育てがスタートしましたが、主人は県外出身、私の身内も県外在住。そのため近くに頼れるところがなく、また人に迷惑をかけたくないという性格もあって、首が座る前の娘を買い物や祖母の通院に連れ出していました。

ある時、病院の待合室で居合わせた方に「こんな所に赤ちゃんを連れて来て…可哀想に。」と言われ、ハッとしました。やはりこの状況は子どもにとって良いわけがない。どうにかしなくては。

祖母の通院は介助サービスを利用したり、親戚の協力を得て娘を短時間預かってもらうようにしました。そしてファミサポにも登録。今のところ利用回数は多くないですが、“頼れる所がある”という安心感は何ものにも代えられません。また、支援センターにも積極的に通い、悩みや他愛のないことを話して気分転換させてもらえる大切な場所が出来ました。

そして顔を合わせると「大きくなったね」と声をかけてくれ、庭や畑で採れたものをくださるご近所の方々。子どもが泣いたり騒いだりする事も多く申し訳なく思っていると、「泣き声でも聞こえてくれば賑やかに感じるから気にしなくていいのよ」と温かく見守っていただいています。

子育てをすることで、支援の手がこんなにも身の回りにあるんだと実感。そして“困ったら頼ってもいいんだ”と、考え方も大きく変えてくれました。

この6月に次女が誕生し、久々の乳児との生活や上の子の気持ちのケアなど苦戦の日々ですが、困った時でもどうにかなる！と以前より肩の力を抜いて子育て出来ているように感じます。

差し伸べられた支援の手は、素直に受け止めて、感謝の気持ちを忘れずに。そして、いつかは私が手を差し伸べる立場になっていけたら…と思います。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一ノ瀬 和則 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。前回の木谷さんから「次のメッセージは一ノ瀬さんをお願いしました～」と聞き待っていたら、何とパパさんからのメッセージ♡が届きました！(^ ^)！ 子育て支援の場面にもよく顔を出してくれる和則さん。2人の娘さんの頼もしくてやさしいお父さんです。

これからもパパからのメッセージお待ちしていますね！！



育児は育自

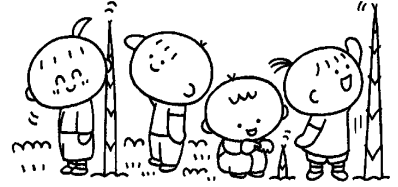
現在、2歳と1歳の父親をしています。結婚するまでは家事をしてこなかったため最初是要領が掴めず「出来ないからやらない方が良いのではないか」とも感じましたが、やっているうちに要領もわかり、今では積極的に家事を行っているつもりです。しかし料理は未だに作れず妻に任せっきりです。また、仕事で遅くなることや休日に仕事があつたり、趣味で家を留守にってしまうこともあり、自分の都合を優先させてもらうことが多く、妻には日々感謝しております。そんな中で妻にも自分の時間や友だちとの時間を作ってもらい子育てから休憩をしてもらえればと常々思っています。何度かその状況になり、2人を1人でみる大変さを実感しました。「イクメン」というにはおこがましいですが、家事育児を妻に任せっきりになってしまわぬようにし、「手伝う」のではなく「一緒にやる」という気持ちで、当たり前のようにしてもらっていることを当たり前と思わず「ありがとう」と言えるよう心がけています。

日々の育児では、できなかったことができるようになることに喜びと感動を覚えますが、できることが当たり前になると、やりすぎないように注意してしまうことが増えてきました。育児に正解はないと思いますが、怒ったり注意したりすることで子どもらしい振る舞いや自由な発想がなくなってしまうのではないかと、何が正解かわからず父親なりに葛藤する日々を過ごしております。

「育児は育自」という言葉を耳にし、その通りだなと感じました。子どもに注意する中で「人の嫌がることはしない」「ご飯は集中して食べる」「使ったら片づける」など、自分が100%出来ているとは言いがたいことばかりで、注意しつつも自分ができてないことは直さないといけないなと反省しています。

子育てを通じ様々な発見や新しい出会いを大切に、成功も失敗も子どもと一緒に経験し、一緒に楽しみながら一緒に成長していきたいと思っています。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



一瀬 杏菜 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
「今の気持ちのまま文章にしてみました！」というメッセージを添えて寄せてくださったのは一瀬さんです。こんな本音トークに「そうそう!」と共感して、そして癒されて、「また明日も頑張ろう!」ってみんな思うのでしょうか。

母になるということ

ちょうど1年前、私は母になりました。おぎゃーっと産まれたその瞬間からノンストップな育児が始まりました。今までの生活とは180度違った生活。泥だらけのスニーカーをはき、パンパンに膨れ上がったリュックを背負い、ちゃんとした化粧もせず、髪を一つにくくり、今日も息子の小さな手をぎゅっと握り公園に行きます。ごはんは今何食べた？と思うぐらい早食いになり、服や髪の毛には息子がつけた沢山の米粒。トイレにもついてきて私のやることなすこと邪魔をします。一人の時間がほしい……。広い布団で朝まで寝たい……。そんなことを何度も思いました。子育てが上手いかずイライラした日もあり、息子の寝顔を見て何度後悔したか分かりません。でも、これら全てを打ち消す威力があるのは子どもの笑顔でした。どんなにイライラしても悩んでも疲れた顔を見せても、子どもはその何倍もの笑顔を見せてくれます。子育てに正解はない。シンプルにこの子の笑顔を決やさないようにしようと思いました。いつかは私たちの手を離れる日が来るまで、今しか味わえない我が子の可愛い瞬間を大切にしていきたいです。

ある先生の言葉で、子育てはうまくいっていないぐらいがちょうどいい。と教えてもらい心が軽くなったのを今でも覚えています。息子も1歳。私もお母さんになって1年。やっと慣れてきたところで、子どもはまた次のステップへと成長していきます。大きくなったから子育てが楽になるわけではなく、みんなそれぞれ違った大変さを抱えています。自分だけが大変だと思わず、“一人じゃない” みんな一緒だと思えるようになったのは沢山のママ達と出会えたからです。子どもがいなければ知らなかった世界、出会えなかった人達。母になって気づくことは沢山です。そんな世界を見せてくれる子どもに「ありがとう」を伝えたいです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

内山 裕之 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

「長男が2歳の誕生日を迎えたばかりですので、まだまだ浅い経験しか持ち合わせていませんが、日ごろ考えていることを・・・」というメッセージが添えられていました。いえいえ、なんと2部構成でパパの熱い思いを寄せてくださった内山さん。今回は紙面の関係で「その1」を、そして9月号で続編を掲載させていただきます。



1. 「父親の家事参加」に「育児」を

だれもが感じていることなのであえて強調しますが、育児って、とっても大変ですよ！ 始めてこそ分かる「思い通りにならない」もどかしさや、夜中にフリーダムな寝返りで受ける物理的なダメージなどなど。予想はしていたけど、これはヒドイぜ、と思うことが多々あろうことは共感していただけだと思います。なので、現在、専業主婦で育児を一手に引き受けてくれている妻には感謝しかありません。将来、息子が妻に「このクソババア」とか言ったら絶対本気で怒ります。

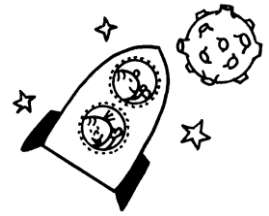
しかし、その一方で「育児はそこまで特別なものではない」という感覚も、どこかで持っています。つまり子どもの食事の世話や、オムツ替えや、寝かしつけと同じように、部屋の掃除や洗濯や、毎食の買い物や調理も大変な仕事だということ。それらを淡々とこなす妻に対する尊敬の念から生まれてくるものではありませんが、育児をとりわけ特別なものとしてとらえ、「父親の育児参加」という言葉を高々と掲げることが、逆に父親の育児に対するハードルを高くしている様に思えます。

ですので、私はある時から考えを改め「父親の家事参加（育児を含む）」に取り組もうと考えるようになりました。妻がオムツ替えをする間、私は皿を洗う。私が息子に散歩をさせている間、妻は食事の準備をする。そうやって諸々の家事を妻と分かち合う中に育児の各要素を入れることで、家事を早く終わらせ、夫婦の楽しい時間や自分の趣味に費やす時間をより多く持てるようになったと感じています。

ここで夫婦の役割を固定化させないことが大事だと思っています。手の空いている人が、やるべきことをやる。そうすることで、私は、より積極的に「育児」に関わることが出来るようになったと感じています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



内山 裕之 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。7月に「父親の家事参加に育児を」と題してパパ視点のメッセージを寄せてくださった内山さん。実はそれには続編があったのです。紙面の関係で2か月遅れのお届けになりました。話のオチに思わず笑ってしまうのは私だけでしょうか?!

2. 子育ての名脇役になろう

うちの子はママが大好き。ママパパを選べるときは大体ママと一緒に、寝るときもママの布団にどんどん進入。何だかなあ、パパも子育て頑張っているのにな、などとしょんぼりしていた時期がありました。

イクメン目指して頑張ってみても、どこかどこかで限界はあります。子供との親密さが向き合った時間に比例すると仮定すれば、日がな息子に向き合っているママに比べ、夜遅くまで残業している私は子供に「選ばれない」。まあ、当然の帰結でしょう。

そこで、私はママを押しつけてまで子育ての「主役」を張ることは諦めようと考えました。ママが一番。ママに叶うものなし。子供の第一声も「ママ」で良いし、むしろ「ママ」と言ってほしい。私は子育ての「脇役」がいい。むしろ名脇役として主役を盛り上げることを目指したらどうだろうと考えた瞬間に、気持ちが吹っ切れ、とても楽になったのを覚えています。

今や映画やドラマは主役以上に名脇役が欠かせません。「コウノトリ」の大森南朋、「カイジ」の香川照之、朝ドラの古田新太や小日向文世……。スクリーンに登場する時間は短くとも、要所要所でいろどりを添える、味のあるバイ・プレイヤーがいてこそ物語は豊かさを増し、視聴者を惹きつけます。それをそのまま子育てに当てはめれば、たとえ短時間であっても、私にしかできない笑わせ方や、楽しませ方や、叱り方で現場に奥行きを持たせる、自分ならではの子育てへのかかわり方こそが、子育ての現場に求められているのではないかと思います。

脇役とはいえ、道程は平坦ではありません。絵本の読み聞かせひとつ、お散歩の歩き方ひとつ、試行錯誤と改善の連続です。しかし、心配はいりません。芸能界と違い子育て界ではライバルはいないのです。自分が工夫を凝らしただけ、トライしただけ、子供に対して、なにより「主役」であるところのママを名優たらしめることができると考えたいものです。だからどうか、主役の皆様には脇役の頑張りを認めていただきたいものです。これは心からのお願いです。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

西野 明日香 さん （南アルプス市在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。
三珠出身の西野さん。「大丈夫！大丈夫!!」、満面の笑みがチャーム的な3人のお子さんも明日香さんも市川三郷のたくさんのお友だちの中で
伸び伸び楽しく過ごされているように見えますよ。



「子育ては母育て」

私は現在、6歳の長女、4歳の次男、1歳の次女の3人の子育てをしています。朝から晩までバタバタしている毎日です。

私が母親になって6年。まだまだ修行が足りないなあと感じるのが沢山あります。

例えば子どもと同じ目線で言い合ったり、「早く〇〇しなさい！」と何度も言ったり…。怒りすぎた日は、子どもの寝顔を見つめながら「言い過ぎてごめんね。明日は優しく声かけするね！」と思っても、実際は同じことを繰り返し、全く反省が生かされていません。母親として子育てのスキルはそれなり身につけてきたはずなのに、思い違いなのかなあと自分のやってきたことに自信が持てなくなっていました。

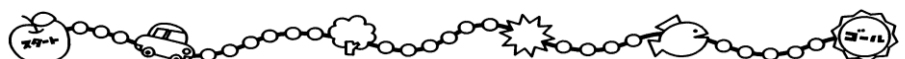
そんな時、普段お世話になっている子育て支援センターの先生やお母さんたちから、

「子どもも3人目にもなると、少しのことじゃ動じなくなったよね。」

と言われ、悶々としていた気持ちがスッと吹き飛びました。

確かに1人目の時よりも、2人目、3人目になるにつれて、ちょっと転んだり、泣いたりしても、「大丈夫！大丈夫！」とあわてずに、子どもに接することができるようになりました。それは、普通のことだと思っていましたが、きっとこの6年の間に、色んな経験を通して得た「証」で、たくさんしてきた失敗も、何一つムダではなかったと思えました。

私は、たくさんの方々に支えられて、今日まで子育てができています。これからも感謝の気持ちを忘れずに、子ども達との生活を楽しんでいきたいと思います。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

内藤 英理子 さん （上野在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。前回メッセージをくださった西野さんからバトンを渡された内藤さん。お子さんの自由な発想を後方援護している姿を見かけます。だから子どもたちはいつもにこにこ、ママもにこにこ「笑って楽しく」すごされているのでしょう。

「楽しく生きよう」

幼稚園に通い出した長女は、最近こんな歌を歌ってくれます。「♪カレ、カレ、カレンダーまんじゅう♪」。その最先端のお饅頭の未知の味に思いを馳せて数日、どうしてもその歌の続きを聞きたくなり、出来心でインターネット検索してみたら、正解は何と「カレンダーマーチ」。なんて粗削りな言い間違い！

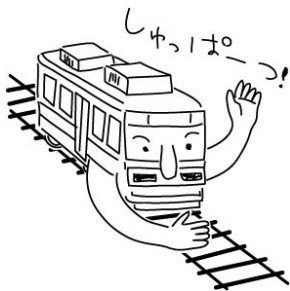
また、別のある日、まだ言葉を話し始めたばかりの長男が、車の中で急に「ドジさん！ドジさん！」と大声で連呼。いやいや、関西でもあるまいし、街中にドジな人が笑いを取って歩いているなんてそうそうないと思っていたら、目の前で白い鳥の大群が空を舞いました。どうやら彼が伝えたかったのは「鳥（とり）さん」。もはや言い間違いを超越している！

二人目が生まれたあとは、年子二人の世話に追われ、当時はそれほど辛いと思っていませんでしたが、今思い返すとあまり記憶がありません。そして、謎の円形脱毛症ができました。記憶もなければ髪もない。それでも、家族を第一に考えてくれる夫と一緒に住む家族に支えられ、なんとかここまでやってきました。そんな大変な中でも私が大事にしてきたのは「笑うこと」、そして「楽しく生きること」。子供達にはぜひ笑って過ごす人生を送ってほしい、笑顔を絶やさずに、と教えようと思っていたら、最近は私の方が子供達から笑いと笑顔をもらっています。

市川三郷町へ引っ越して来てから毎日のように子育て支援センターなどに通うようになり、誰一人友人もない山梨で暮らす私と子供達に、とても大好きな場所ができました。私たちが笑顔でいられるのも、支援センターや図書館、読み聞かせの先生方、お友達、ママたち、そしていつも優しく声をかけてくださるご近所の皆様のおかげです。自分が生まれた埼玉県草加せんべいの踏み絵は踏めても市川三郷町には足を向けて眠れないほど、感謝しています。

これからも子育てのしやすいこの市川三郷町で、愛おしい子供達と家族と共に、楽しい人生を笑って送っていければと思っています。





《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

遠藤 絵里 さん （上野在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。電車が大好きな息子さんのために、大きな遮断機を作って一緒に遊んでいるそうです。そんな素敵な「子育ての種」を蒔いている、遠藤さんから応援メッセージをいただきました。

私は、現在2歳を迎えたばかりの一人息子を育てています。最近は体も表情もだいぶしっかりとしてきました。「旦那さん似だね」と言われることが多かった息子ですが、やんちゃさが増すほどに私に似てきたと言われることも多くなってきました。

大変なこともたくさんありますが、夫をはじめ近くに住む両祖父母、兄弟、姪っ子、そして支援センターの先生やそこで出会った方々に支えられて毎日を笑って過ごせています。特に夫にはとても感謝しています。『イクメン』という言葉に疑問符（母親が当たり前にやっていることを父親がやると褒められるのはなぜ？）を抱かれる風潮となってきましたが、それでも私は夫が子供に関わってくれている姿を見る時間がとても幸せです。夫は子供が苦手でした。遊び方が分からないと、姪っ子たちが遊びたそうでも常に一線を置いていました。妊娠中はそのことがとても気がかりでした。ところが息子が生まれたらもうメロメロです！夫はとても良い顔で笑うようになり「うちの子が一番可愛い」とどの親も確信を持って抱いている感想まで口にしてくれました。今ではパパ大好きな息子に振り回されつつ積極的に遊んでくれています。子供の力は凄いですね。夫を変えてくれた息子にも感謝です。

話は変わりますが、初めての育児にイメージを持つため、子育ては種を蒔くようなものだとはよく想像しています。話しかけて言葉の種を、習い事などで可能性の種を蒔きます。絵本やおもちゃ、いろんな遊びも種です。芽が出る早さはそれぞれですが、蒔いてあげたものはちゃんとそこにあるはず。それらがやがて成長していろんな可能性に枝分かれしていくのだと考えています。念入りに教え込んだわけでもないのに歌や絵本のフレーズを口にしての聞いた時にそう感じました。今は小さな苗木がどんな風に成長するかは分かりませんが、両手を広げて走る息子を見ていると未来がとても楽しみです。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



一瀬 瑞枝 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

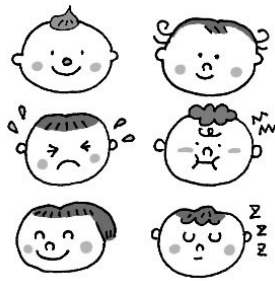
「様々な立場でコロナ禍を経験され、苦しんでいる方がおられると思います。その方々が心穏やかに生活できる日が一刻も早く来ることを願っています」とメッセージが添えられていました。私達ネットワーク連絡会も一日も早い収束を願うばかりです。

11月に息子は1歳を迎えました。夏からは花火に親しんだ息子。最近ドンという音が聞こえると、いっぱいに広げた手を高く揚げ「あドン」と言って“花火を見たい”と伝えてきます。流石、花火の町に生まれた子！！なんて思いながら抱き上げ、カーテンを開けます。窓から夜空の花火を見上げ、「うおー」パチパチ「あった」と感動する姿が可愛くてたまりません。生まれたばかりの頃は、あんなにか弱く身体もフニャフニャだったのに、一年でこんなに心も身体も大きくなるのだなあと私たち家族にも日々、感動を与えてくれます。

さてこの一年を振り返り、生活と切り離せなかったのが新型コロナウイルスの流行です。息子の首がすわり暖かくなってきた春先、様々な所と一緒に外へ出掛けするのを楽しみにしていました。しかし！その矢先の学校一斉休校。緊急事態宣言。4ヶ月検診や各種教室も延期になり、支援センターや図書館も閉所しました。はじめての育児の不安を話す機会も、息子に沢山の経験をさせてあげる機会も奪われてしまったと落胆。仕方ないと思いつつも絶望感に苛まれました。そんな中の「乳児の感染」のニュースは他人事とは思えないくらい緊張感をもって迫ってきたことを覚えています。普段の買い物も夫に任せて極端なほど家に閉じこもり、ただでさえ思い通りにいかない子育てと家事に、気持ちが不安定な日々が続きました。この辛い時期を支え導いてくれた夫、そして優しく見守ってくれた家族には感謝してもしきれません。

段々と暑さが増してきた頃、感染予防対策を講じて再開された支援センターにまた通い始めました。ここでの新たな出会いと経験が息子に良い刺激を与え、私の心の支えになっています。先生方を中心に、同世代の子どもを持つ親たちがともに子の成長を見守り喜び合える場があることは、本当に素晴らしく、有難いことです。

人は人に支えられて生き、人の中で成長します。早く、気兼ねなく人々がかかわりあえる日がくることを切に願います。そして、息子が市川三郷町の花火や祭りを思う存分堪能できる日を心待ちにしています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一瀬 広朗 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

先月号（12月）にメッセージを寄せていただいた、一瀬瑞枝さんのご主人です。息子さんの成長を残したいと一瀬家のタイムリーな話題を取り上げてくださいました。息子さんにぞっこん一瀬さんが仕事と育児と家事の合間を使いながら悩みぬいて書いてくださったそうです。

僕はあつあき。アンパンマンと鳥と電車と花火とパンとご飯が大好き。そしてそして、何よりも僕はおっぱが大好き。「おっぱ」と言って、おっかー（※母）のおっぱをポンポンすると、おっかーは僕をぎゅーしておっぱをくわえさせてくれる。これがあるとすつごく安心して眠れる。不安になったり、少し寂しくなったりしたら、いつでもおっぱが安心させてくれる。

でも、1歳を過ぎてしばらくたった頃から、おっぱはなんかサラサラになって、たくさん吸わないとゴクゴク飲めるほど、出てこなくなった。おっかーは「おなか痛い痛いだから、そろそろおっぱ、ないないね」と言うようになった。それにおっかーは僕がおっぱを吸うと具合が悪くなるみたいだった。何かが変わったって思った。もっと不安になって、おっぱで安心したくなった。でも前みたいな安心感や幸福感はどこか遠くにいったみたい。そんな時、おっとー（※父）が話をしてくれた。「おっかーちゃんのおなかに赤ちゃんがきてくれたんだよ。赤ちゃんにたくさん栄養をあげるために、あつあきはおっぱを卒業しようね。おっぱがなくて寂しくなるけど、その分たくさん、おとーちゃんとおっかーちゃんが、ぎゅーして安心させるからね。」僕はおっとーの目を見て聞いた。そして「はい」って高い声で応えた。

おっかーは「今日でおっぱ最後だからね。」と言った。ついにばいばいの日がきたみたい。おっかーは僕に思う存分おっぱをくわえさせてくれた。そこには安心感があった。

朝起きると、おっとーがいた。「おっとー」と言って両手を伸ばすと、おっとーはすぐ抱っこしてくれる。「あっち」と指を差すと行きたいところに連れて行ってくれる。心が満足すると、一人で遊ぶ気分になる。そしてその日からの毎日は忙しかった。おじいちゃんおばあちゃんの家に行ったり、公園に行ったり、ドライブに行ったり。たくさん一人で立って、絵本を見て、電車を見て、たくさん疲れると案外、おっぱがなくても眠れるみたい。抱っこやトントン、子守唄でもすぐ眠れた。

時々、僕は寂しくなると、手を口に持っていくようになった。おっとーとおっかーは、そんな時にチュウチュウ（※おしゃぶり）をくわえさせてくれた。当分、チュウチュウは僕の相棒になりそうだ。

そうそう。この間、おっかーのお風呂あがりに「おっぱ」と言ってみた。おっかーはおっぱを見せてくれた。触って確かめて服を戻すと、おっかーがぎゅーしてくれた。次の日、少しくわえてみようとしたら、おっかーは「だめ」と言った。おっかーと笑った。やっぱりだめだったか。笑。

まだまだおっぱが恋しくなるときがあると思う。でも、成人の日のお祝いの花火を見たら、大丈夫な気がしてきた。だって、おっとーとおっかーは、いつも僕にこう言ってくれるから。

最高に愛してるって。





《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

一瀬 澄子 さん （市川大門在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。

一瀬澄子さんは、先月号（2月）にメッセージを寄せていただいた一瀬広朗さんのおばあ様です。前半は、広朗さんの奥様が、澄子さんから聞き取った話をまとめてくださいました。後半は「ばあばらしい文体のステキな文章です。」と添え書きがされていました。一瀬家の皆様、リレーでのメッセージありがとうございます。

夫の祖母は今年で94歳。地元の小学校で定年まで勤めあげ、近所の人からは「先生」と呼ばれています。今では曾孫7人の成長を見守り、お手玉やボールで遊んでくれるとってもパワフルなおばあちゃんです。そんな祖母はよく、亡き祖父・正造じいじの母と妹が子どものことをみてくれたから最後まで働くことができたと感謝を述べています。

祖母が子育て世代であった戦後の高度経済成長期。仕事と子育ての両立は、聞きかじっただけですが、とてつもなく壮絶でした。陣痛がきたのは、なんと学校に歩いて出勤する途中！産後も1カ月程で仕事に復帰！というハードスケジュール。復帰後はじめの頃は、休み時間に合わせて祖父の母が勤務先に赤ちゃんを連れてきてくれて授乳したそうです。その後は、大変そうな母を気遣い、休み時間に自分が一時帰宅。授乳をしながら母の用意した昼食をいただいて仕事に戻っていた。「雨や雪の時は着物の裾が濡れて急いで往復するのが大変だね」と語っています。「出勤時間になると家のことを脱ぎ捨てて（両手で払う動作をしながら）学校に向かい、退勤時には仕事のことを脱ぎ捨てて急いで帰るんだよ」夜泣きや夜間授乳だってあるのに、また次の日出勤して子ども達に向き合う。休む暇なんか相当なく、身を粉にして子を育て、家計を支え、社会を支えた。戦争だけでなく、戦後の復興期の日本を必死に生き抜いてくれた。本当に本当に頭が下がります。

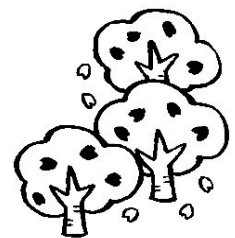
そんな祖母は退職後すぐに孫育てに励みます。その当時の「雑感」と題したメモに、孫とのエピソードが記してあったので1つ紹介したいと思います。

広朗が幼稚園へかよいはじめて、ちょうど一か月経った頃の事であった。退園時刻なので、飼育小屋のあたりに立って、お教室から出るのを待っていた。いつもなら近くま

で迎えに行くのだが、「ここまでなくていいよ」と向こうから広朗の元気な声が聞こえてきた。カバンの中に、なにやらずっしりと重そうな物が入っている。中には直径十五センチ程の大きな石が三、四個。それに松ぼっくり、二十センチ程の木の枝二本。割箸一本、細い鉄の棒一本と、とにかく埃だらけになっている物ばかりだった。しかし、本人は「ぼくのたからものだよ」と言っているのだから仕方がない。内心、こんな汚いものよきなさいと思ったが、そのまま家に持ち帰らせることにした。「お母さんに見せてあげるの」と嬉しそうである。「だけどね。明日はこれを幼稚園のお庭へポイするの」つまり、拾った場所へたからものを戻すということなのだろう。でも、石などを持って帰るのは、これで三度目である。

私達おとなの価値観と子どもの価値観とは全く違う。いつの間にか歳老い、そんな立場でしか物が見られなくなってしまった自分には、奇異ともとれるこんなみずみずしい感性は喪失してしまっている。そういえば私にもそんな経験があったような記憶もあるし、いわばこの年頃の面白い一面だとも思う。

先人の話を聞くと、「あー。ゆっくり休みたい」「ひとりの時間がほしい」なんて思っている自分の弱さが恥ずかしくなります。頑張ろう日本のお母さん！！



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

いつも「子育て応援メッセージ」を読んでもらってありがとうございます。今回はピンチヒッターで突然メッセンジャーが回ってきました。何を書こうか！？と子どものころの「思い出」を書き始めたらとりとめのない文章になってしまいましたが、どうぞお付き合いください。今後とも「わいわい通信」をよろしくお願いします。

●-----●-----●-----●-----● 『わいわい通信』制作 staff **高室 伸代**

自身の子どものころを振り返ると、私は地域の人達や縁者の中でたくさんのことを経験させてもらい育ったのだなと思い出がよみがえりあたたかい気持ちになります。

当時、家業に忙しい父母に代わり「となりのばあちゃん」が保育園に迎えに来てくれることはしばしば。そのままとなりでお風呂に入り、大好きな焼たらこで夕飯をよばれ、時には畳屋のじいちゃんが引くりヤカーにちょこんと乗って畳を配達(?)にも出かけた。じいちゃんとはあちゃんと3人で川の字になって眠ると朝には必ず自分の家の母の横で目が覚めた。

休みの日はよく母の実家にも遊びに行った。おばあちゃんとイナゴを捕まえたり、蓬を摘んで草もちを作ったり、美味しかったな。おじいちゃんと霞ヶ浦でシジミを獲ったりもした。もっと泊まっていたくて駄々をこねると、おじいちゃんが「今夜、裏の山からがんだう猫が下りてくるぞ～」と言うのでママへのお土産の草もちを持ってあわててうちに帰ったっけ。(笑)

少し大きくなったら私も店の手伝いをした。配達で近く中華料理屋さんに行くと、「のーちゃん、えらいね。」っておばちゃんがほめてくれてゆで卵をひとつお駄賃にくれた。「えらいね」と「ゆで卵」どちらも嬉しくて、少しおとなになった気がして夕方の店の片付けも張り切って手伝った。・・・これらはほんの一握りの思い出。

こんな私によく笑い、泣き、歌い、走る二人の宝物(孫)ができました。一緒に過ごせる週末が楽しみなこの頃。この子たちの(今の子どもたちの)未来について今まで以上に考える機会になりました。このコロナ禍の中、親族や地域みんなで地域の子どもを育てるという環境はなかなかのぞめないのかもしれませんが、でも、こうして何十年もの時が経っても私の中に鮮明に残っている思い出、たくさんの人に愛されているという幸せを孫たちも感じながら育ててほしいと願っています。

ほんの小さなこと、たとえば朝夕行き交う子どもたちに「おはよう」「おかえりなさい」という声をかけて「みんなで見守っているよ」というメッセージを子どもたちに発していこう。先人の残してくれたあたたかいものを次の世代に渡す小さな歯車になりたいと今思っています。



《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

村松 てるみ さん （上野在住）

今回メッセージをくださったのは、村松てるみさんです。旧三珠町の頃から、町の子どもたちの子育て、子育てに力を尽くしてくださっています。

耳をすますと、上野の山の中から、子どもたちの生き生きとした元気な声が聞こえてきそうです。みなさんもぜひ覗いてみてくださいね



私には子どもが三人います。長女が生まれ、初めてのドキドキの子育てが始まりました。仕事柄、子育てへのそれなりの知識はありましたが我が子となれば大変です。夜も何度も起き寝不足になりつつ家事をこなし、忙しい日々を送っていました。これは今子育てをしているママたちと同じです。

そんな忙しい日々が過ぎ長女が一歳半になった時、次女、三女の一卵性の双子が生まれました。今の医学では考えられませんが生まれてくるまで双子とは分かりませんでした。一人生まれると「もう一人お腹の中に入っています」と言われ子どもの心音が聞こえていました。そこから三つ子を育てる日々が始まったのです。次女、三女は小さかったので一回の授乳量が少なく、朝が来るまで六回は授乳で起きていた記憶があります。

双子を両手で抱え、長女が「私も抱っこ！」と足にしがみつき、それはとても切なく忙しい日々でした。そんな日々が過ぎ行き、今は子どもたちもそれぞれが母になり働きながら子育てに奮闘しています。

子どもの気持ちに寄り添い、子育てをしているママの気持ちに共感し、長い間、今どきの子育て事情に関わってきました。近年、地域社会の中で関係性が希薄化し子育て家庭の孤立が目立つようになりました。そこで室内で過ごすことの多い今の子どもたちに、もっと自然の中で思い切り自分を出して木や水や土を全身で感じながら心身ともに成長してほしい。そして、四年前、仲間たちと森の中で野外遊びを通して子どもやその親、家族を見守る活動を始めました。

毎回三十名前後の親子が集まってきました。

今年から、高校生、大学生ボランティアの方々にも参加してもらい年齢も近く子どもたちのもっとも身近な力強い存在になってくれています。

子どもの笑顔が周りにいるみんなを元気にしてくれます。子どもが自ら育つ力を引き出し応援する大人の一人として、自分にできる事をこれからももう少し頑張っていこうと思っています。





《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪

神長 美幸 さん （六郷在住）

六郷子育て支援センター「にこにこ」に通うようになり、ちょうど1年が経ちました。すっかりおしゃべりになった息子と近所のお友達と過ごす穏やかなひととき。残り数カ月で卒業すると思うとなんだか寂しい気持ちになる今日この頃です。

さて、「にこにこ」の大野先生から、「助けてくれる方募集中なんです！手違いで締め切り間際
の原稿を書いてもらわなくちゃいけない！」と。それはお手伝いするしかありません！

お世話になった感謝の気持ちを込めて「にこにこ」の思い出を書かせていただこうと思います。

「子供たちのヒーロー！？」

「にこにこ」の窓の外を、決まった時間に通るゴミ収集車。1年前、運転席に乗るおじさんは淡々とゴミを集め、足早に去っていた。（仕事だから当たり前かもしれないけれど）無表情で、やや怖い印象だったかもしれない。

それが・・・子供たちが窓の外に向かって

「ごみしゅうしゅうしゃー、がんばれー！がんばれー！ばいばーい！」
と応援するたびに、どんどん優しい顔になっていった。

半年くらい経った頃、おじさんが子供たちの声援に答え手を振ってくれるように。
今では「にこにこ」を通るその顔はにっこにこ！

ゴミ収集車が大好きな子供たちにとってゴミを収集するおじさんは、パトカーを運転するおまわりさんや消防車を運転する消防士さんと同じ存在。ダンプカーに乗るお兄さんも、ショベルカーを操るおじさんも、救急車に乗る救命士さんもみんな同じ。子供たちのヒーローだ。全員に「がんばってー！」と声をかける息子をみて、

～人にはみんなそれぞれ役割があって、

どんな仕事も絶対に誰かの役に立っているんだなあ～

なんて当たり前のことを改めて思う。

小さい子はなにも知らないからこそ、いつも何かを教えてくれる。汚れないキラキラとした目で。大人は経験がありすぎて無意識に気付けなくなっていることが山ほどあるのかもしれない。子供たちから教えてもらった沢山の気付きに心からありがとう。

コロナ禍でも、自然豊かな六郷で子育てする日々はとても穏やかで楽しい時間だった。春は桜が満開になり、初夏は毎日ザリガニ釣り。夏には庭でプールに入り、夕暮れの富士川の土手でお散歩。秋になったら栗拾い。紅葉は手が届きそうなほど近く。

そして、一年中祖父母の畑で土いじり。ご近所と野菜の物々交換は日常茶飯事。

もし都会にいたら出来なかった貴重なことばかり。

たとえ記憶として覚えていなかったとしても、三つ子の魂百までと信じ、この体験が我が子の心の奥にあたたく残ってくれたら嬉しく思う。

《子育て応援メッセージ》 みんなが応援！！子育ての輪



小田 涼子 さん （六郷在住）

わいわい通信では、地域の方から『子育て応援メッセージ』をいただいています。六郷で、スローライフを楽しんでいる小田さん一家です。自然を感じながらの日々の親子の日常を切り取ったメッセージを寄せていただきました。

「料理は火おこしから?！」

妊娠が分かってから、山梨への移住が決まった我が家。引っ越し、出産とバタバタと生活環境が変わる中で、主人の念願だった薪ストーブのある暮らしが始まりました。

薪ストーブの何とも言えない心地の良い温もりに包まれるまでには、薪作りから始まって、早起きしての火おこし、火をたやさぬようこまめな調整、重い薪の外から中への運搬・・・それはそれは様々な労力が必要です（もちろん、主人が頑張ってくれているわけですが笑）。

現在、2歳半を過ぎた息子は、休日となれば、庭で作業をする父親の真似をするのが大好き！畑仕事では鍬を振り下ろし、最近では草取りもしてくれます。もちろん、種まき後の畑を荒らす、というおまけ付きですが。笑

薪ストーブの為の作業も例外ではなく。薪割りの真似、薪の運搬（薪と一緒に運搬してもらって父の労働を増やしてるだけ笑）、焚き付け用の小さな木を作る際には、Myナタを父親に用意してもらい、どんなに寒い日でも軍手をして張り切ってお手伝いしてくれます。ストーブ着火の際は、木を入れるお手伝い！

ある日のこと。

おもちゃのキッチンの前で、ストローを吹く息子。何をしてるのかな?と思ったら、「火がついたよ～!まんま、できたよ～!」と嬉しそう!

ストーブの火が弱くなった時、火吹き竹で火を起こす父親を真似て、（おもちゃの）ガス台に火をつけようと吹いていたのです!

たぶんこれ、現代ではなかなか伝わりにくい動作だろうと、主人と笑いつつ、今度はMy火吹き竹を作ってやらねば!と、主人。

とっても可愛い我が子の姿に癒されると同時に、親のやることをしっかり見ているのだと、身の引き締まる思いでした。

大きくなっても、お父さんの作業を楽しんで手伝ってくれるかな?「やだよ!」なんて言われちゃうのかな?

それでも、父と子の共同作業の日々が、息子の何かを育んでくれたらいいなあ、と思っています。

お父さん、息子くん、いつも我が家に温もりをありがとう!



《 編 集 後 記 》

良い季節になりました。
普段、マスクを強いられている子供達を
外でおもいきり遊ばせてあげたいですね。

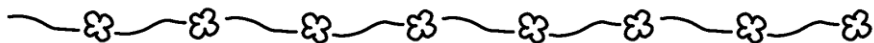
創刊当時、わずか40部発行の「わいわい通信」
その中の子育てメッセージに寄稿して下さったみな様
お元気ですか？ その節はお世話になりました♡

小さな種が集まって、この度 大きな花束となり
念願だった一冊の形になりました。

デジタル化が進み、情報が手に入りやすいこの時代でも
子育ての先輩の生の声をお届けして、
現役の若いパパ・ママさんを
応援していきたい気持ちはずっと変わりません。

子育て 子育ち 孫育て・・・
みんないろいろあるけれど 楽しんで過ごしましょう♪

いちかわ親子わいわいネット
会長 村松 生子





わいわい通信 子育て応援メッセージ

2022年3月発行

発行者・編集

市川三郷町子育て・子育てネットワーク連絡会

いちかわ親子わいわいネット

問合せ 市川三郷町いきいき健康課子育て支援係

0556(32)2114

印刷 廻木商店

表紙イラスト 土屋美寿貴



